

成功する留学のために

カナダ高校留学の実態

成功する高校留学は、現実を知ることから

まずは「知ること」から

大澤真知子

Machiko Osawa

Contents

Letter from the author	4
高校留学の現状と将来-2014	5
カナダ留学か日本での教育か-2014	8
今すぐバンクーバーの高校に留学したいです - 2014	13
「高校留学したけど卒業出来ない！」現実 - 2015	17
カナダの高校で英語の授業についていけません - 2015	21
カナダの高校留学・続く変化 - 2016	23
「カナダ高校留学」と「トビタテ奨学金の不可解さ」 2016	27
間違いだらけの「高校留学」観 - 2016	30
カナダ留学のこれからー新しい高校留学の形 - 2017	33
カナダ留学のこれからーお助け編 - 2017	37
高校留学は誰にでも出来ると思っ込んでいる不思議の国日本 - 2017	39
カナダ高校卒業留学の嘘とからくり - 2017	45
高校留学前の準備勉強	48
日本人高校留學生の現実-これでも留学しますか- 2017	51
悪化するホームステイ事情-留學生の窮状 - 2018	55
語学学校から始まる高校留学プログラムには全体参加しないよう に！ - 2018	61
カナダ大使館の「カナダ留学フェア」の裏側	64
高校留学したけど卒業出来ない日本人高校生へ - 2018	67
カナダ高校留学、そして中卒のまま帰国 これが現実- 2018	70
カナダ高校留学は穴だらけーようやくカナダメディア(CBC)が 現実を報道 - 2018	74

Contents

高校留学の凄まじい現実—体験者の声 - 2018	78
「高校卒業留学」はエージェントさえも断る無謀計画 - 2018	83
「高校留学の真実」 - 「AFS交換留学生の証言」	87
費用が妙に安いノバスコシア高校留学はお勧め出来ますか？ 出来ません - 2018	90
「高校2年でカナダ留学しそこから2年で高校を卒業出来ますか」 「出来ません」	97
高校留学の真実を聞いてもそれでも留学したい高校生への忠告 - 2018	101
騙された日本人で溢れかえるカナダの高校留学事情-2018	105
留学希望のみなさんへ、これがホームステイの現実-2018	108
カナダの高校を卒業出来なかった留学生への選択肢-2018	113
カナダの高校を卒業出来ない日本人留学生のパターン	116
20歳の日本人高校留学生が行き場もなく徘徊するカナダ-2018	118
後書	121

カナダに高校留学するとは

カナダは日本とは大きく異なる教育制度を持つ国です。その重要な柱の役目を果たす高校教育には、大きな魅力があると同時に、何も知らずに留学してくる日本人高校生にはとてつもなく危険な穴が待ち受けています。

「留学」を志したらまず最初に必要なこと。「カナダを知ること。」 Let me help you.

1994年、カナダBC州に乗り込み「高校留学サポートプログラム」を始めました。留学エージェントなるもののバラ色セールストークに大きな疑いを持ち、スクールボードと直接交渉する「物言う日本人」として日本の未成年を守ろうと決意したのがきっかけです。



メッキが剥げ落ちるように見えて来たのが、日本の子どもたちを食い物にする「留学ビジネス」の実態です。その中で「こんなはずでは。。。」と、もがく子供たちは、外国であるカナダでは何の権利もありません。高校も卒業出来ず、自らの尊厳までなくし、中卒のまま帰国して行く日本人留学生。

そんな犠牲者を一人でもなくす方法は「カナダ高校留学の実態」を日本のみなさんに知っていただくことだと、コラム・ブログで発信を続けています。その集大成がこのeBookです。現在は「サポートプログラム」は引退、主にボランティアで日本人留学生を支援しています。

カナダは世界中からやって来る人たちに門戸を大きく開いている国です。しかし、何も知らずに飛び込んでも、カナダ教育の恩恵を受けることは出来ません。まずは、「カナダを知ること」。一度しかない大切な人生をかける「高校留学」を決める前に、「カナダを知ること」が必須です。

大澤 眞知子 Machiko Osawa

(Jun. 2018, カナダにて)

〈高校留学の現状と将来〉 Jan.13, 2014

高校留学についてお問い合わせをいただきました。

年間何十件もの方から相談を受ける内容です。

よ〜く自分のことを分析し、一生の悔いにならないような選択をしてください。
参考になればと、いろんな視点から回答してみます。

私は現在高校一年生の者です。

海外に関して本当に興味があり、もっともっと自分の知らない世界を見たいと思っています。今通っている高校は進学校と言われるのにもかかわらず、授業中もスマホをいじっていて、将来の夢や、社会に対してあまりに関心です。このままここにいつづけていいものか？と最近、心底悩んでいます。また、なんとなく大学に行って日本の企業に何となく行く、とかそういうことは自分のしたいことじゃないです。それなら海外の高校に行って、スキルをつけるための専門学校に進学し、就職するほうが自分に合うと思っています。

だけど高校留学はデメリットの方が多いと聞きます。
実際にこのような動機で行っても成功しないのでしょうか？

ちょっと溜息が出ますね。

そうなんです、高校留学は非常に難しいです。

よほど条件が整わないとお勧め出来ない選択です。

お尋ねの内容を考えると、英語圏での勉強への準備をしながら今の高校を卒業し、そのあと自分の能力に合わせて英語圏の教育機関を決めることがベストだと思います。

特に、まったく基礎知識も準備も、現地での信頼できるコネクションもなく、「日本の学校が嫌だから、日本の教育制度はおかしいから留学したい！」はほぼ100%に近い確率で惨憺たる結果となります。

(Sorry! 20数年の経験から言える事実です・・・)

なぜでしょうね。

高校留学を「うまくいかなかった日本」からの逃避に使おうとするからです。

「うまくいかない」のには、必ず自分にも責任があるはずで、日本の教育制度が時代遅れで、子供の能力を奪ってしまうものであることも理解しています。

しかし、今自分がその中にいる以上は、そこで出来るだけのことを達成することが必要ですね。

それも出来ずに、「教育制度が悪い。」「先生が悪い。」「だから自分はうまくいかなかった。」

と、思っているなら大間違い。

自分のやる気のなさは、環境のせいではなく、自分の性格だとまず認識し、それを直すことが必要ですね。

母国語が通じ、親もおり、友達もいるこの自国の環境でも、何かを達成出来ない状態で、まったく環境の異なる外国に行くことは、「よたよた歩く3歳児を、車がぶ～んぶ～ん行きかう交通量の激しい高速道路に置き去りにする」よりも危険だと思います。

悪いところが必ず助長され、もっとひどい形で表面に出てきます。

環境を考え直したあとは、「高校留学」の定義を考えて下さい。

「高校留学」とは、「英語圏の学校で英語で勉強する」という定義です。

英語を勉強するのが「留学」ではないことを理解することが大切。

つまり、英語圏で生まれ育った、英語を母国語とする同年代の子供と同等の英語力、常識が必要だということです。

そこで初めて、同じクラスで席を並べて勉強出来ます。

そこを明確に認識することから、「高校留学」が果たして自分に可能なことなのかを考えて下さい。

確認点：

- 1) 今までに英語圏の教育制度に合わせた準備をして来ましたか？
- 2) クリティカルシンキングの基本は身につけていますか？
- 3) Reading は大体英語圏の中学生レベル、writing はまとまったopinion essay が正確に書けますか？

(＊日本の学校で教えている英語では間に合いませんよ。日本人向けのテスト、英検・TOEIC のレベルなどもまったく役に立ちませんよ。)

その次に認識が必要なことは、「まだ大人の助けが大きく必要な年齢」にも関わらず、親もとを離れる」事実です。

確かに、ホストファミリーや、指定後見人などが現地には存在します。

しかし、同じ日本の常識を共有し、親のようにあなたを守ってくれる大人はいませんよ。ホストファミリーとは、金銭的に契約を結んだ同居人としての付き合い方を覚える必要があります。

ひとりの独立した人間として精神的に自立出来る能力が必要です。

15歳程度には、かなり難しいことですが、留学を選択するなら必須の能力です。

「高校留学」をなぜか希望する親も問題です。

学校などでの子供の問題にいちいち口を出し、「悪いのはうちの子ではなく、環境だ。」と勘違いしている親。

これが高校留学への大きな弊害にもなります。

英語圏の異なる環境を理解し得ないまま、自分の子供の留学がうまくいかないことを、周りのせいにします。

その親の態度に助長された子供は、努力をまったく止め、すべてを周りのせいにする根本的な問題点を抱えたまま大人になる可能性が高いですね。

ふう～、道のりはるかですね。

ふたつ目の相談点、英語圏の学校卒業後の就職について：

これも以前に回答していますので、お読みください。

[海外の大学に行き海外で就職するには](#)

外国で能力・スキルを高く評価されるようになるためには、今後かなりの努力と経験を積み重ねることが大切だとおわかりいただけましたか。

自分にはどの方法が取れるのか、よく客観的に分析し、準備を始めることからスタートして下さい。

まだ十分時間がありますよ。

これからの長い長い人生、自分を大きく開花させられるといいですね。



〈カナダ留学か日本での教育か〉 Feb.17, 2014

こんな質問をいただきました。

他にも同じような内容のご相談が最近多いです。

回答を寄せるたびに、逃げ道が非常に限られているか、またはマイナス点の方が多い現状にイライラしてしまいます。

それでも、現実をバラ色に変えてアドバイスするわけにはいきませんので、厳しい回答になってしまうこと多々ですが、多くの方が興味のあることだと思います。

カナダの高校留学と大学進学について検索をされていてこちらにたどりつきました。

中1（13歳）の息子の進路と、それに向けての英語学習方法について相談させてください。

息子は家族共々3年超アメリカに滞在し田舎町の公立小学校に通いました。日本では集団主義になじめず、いじめの対象にもなっていた息子ですが、アメリカ生活が大変肌になじみ、日本人のほとんどいない環境で、生き生きと学校生活を送りました。成績もよく、生徒会にも立候補するほど適応しておりました。

現在、また日本の義務教育に戻ってしまい、同じ困難を経験するよりはと、北米での教育を考えています。調べた結果、カナダ・バンクーバー近郊にある学区でのインターナショナルプログラムに1年半、とりあえず通わせる予定です。カナダの教育制度が魅力的なことももちろんですが、日本の教育制度にはおいておけないという後ろ向きな理由もあります。

1年半後、そのまま高校に行くか、日本の高校に戻るべきか迷っています。本人の希望はカナダですし、それが一番合っているのは分かっていますが、日本語能力の低下を心配しています。現在でも漢字は小学3年生程度です。そんなデメリットを思うと、高校はいったん日本に戻り、カナダの大学進学への準備をする選択肢も考えています。

大澤先生のコラムにも、同じ仕事を英語と母国語でできる能力が必要、とありますが、今でも読み書きは英語の能力が上なので、カナダ生活が長くなると日本語がますます遅れるのではと思います。この点について、アドバイスをいただけましたらうれしいです。

また、カナダの高校を卒業したとしても、UBCやトロント大学などへの進学は難しいと聞きましたが、日本の高校からTOEFLの点数などでインターナショナルの生徒としてアプライするのとどちらを勧められますか？

複数の質問が含まれているようですので、ひとつずつ考えて行きます。

1. British Columbia 大学(UBC)やToronto 大学などへの入学について。

カナダの大学入学には二つのルートがあります。

- 直接UBCのような大学に入学を許可されるためには、高校でかなりの好成績をおさめていることが必須です。カナダの大学レベルは世界的に見てもかなり高く評価されており、日本のように各大学のレベルの差はほとんどありませんが、リサーチで世界に有名な大規模な大学(UBCのような)はやはり人気があるようです。特にアジア圏内からカナダの大学に子供を留学させる親たちに人気です。世界的な知名度でしょうか。
- ふたつ目は、もっと小規模で教授にも近い大学か、カレッジ（国により、この「カレッジ」意味は大きく変わりますが、カナダでは大学と同じレベルのコースが取れ、その単位は大学にtransfer 可能です。）からの編入です。高校卒業資格があればほぼ入学が許可されます。（留学生はTOEFLが必要ですが、ある一定年数以上カナダで教育を受けており、English 12 がB以上であればTOEFL免除になることもあります。）

カレッジで30単位～60単位ほど取得したあと（好成績が必要）、希望の大学にapplyし、そこから編入します。卒業資格は編入した大学の名前です。

留学生などは、直接大規模な大学に入っても独立した勉強についていけずドロップアウトする可能性が大きいので、ほとんどカレッジ周りのルートを勧めます。私の教え子たちは、このルートからカナダの有名大学を卒業しています。

2. 日本の高校卒業後、UBCなどへの留学をするルートも1番とほぼ同じです。

異なる点は：

日本の高校の好成績が必要になります。高校間の格差も調査されますが、かなりの高い成績を取った留学生が世界中から応募しますので、競争率はかなり高いです。

もちろんTOEFLは必要です。この場合100点以上は必要だと思います。

カレッジルートの場合は、成績よりも高校卒業していること、高校で何を履修したかが考慮対象です。TOEFLももちろん必要です。

3. 日本の高校に戻るべきか否かについて

カナダのCritical Thinkingの中で脳が大きく発達する中学生時期を過ごし、時代遅れも甚だしい日本の高校に戻ってくることは、子供さんに大きな試練を強いることになると思います。Critical Thinking 欠如の日本では、せっかくカナダで頑張って身につけたことをきれいさっぱり忘れることを要求され、自己主張を封印することになります。

従ってこの「中学はカナダ、高校は日本」というのは子供さんにとって少々残酷な選択肢だと考えます。

4. 日本語能力の低下について

日本の中学・高校での日本語教育を欠かした場合、これは致し方ない結果だと思えます。ご両親が日本人であれば日常会話には支障ないのしょうから、あとは本人の努力次第ですね。

それよりも心配なのは、Semilingual の危険性です。

母国語も、移民先（息子さんの場合は留学先）の言葉も中途半端な能力で終わってしまうことです。これは将来に渡り、どちらの社会でもうまく自己表現出来ず心理的な問題を抱える危険性をはらんでいます。

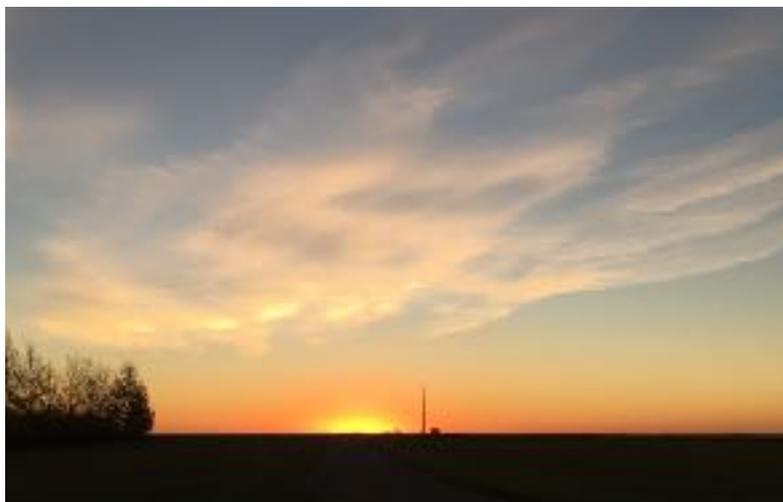
（最近問題ば研究テーマです。この悲惨な状態に陥った生徒も教えたことがあります。）

大学で何を学びたいのか、そのあとはどのような希望があるのか、それにより慎重な選択が必要だと思えます。

5. 予定されているインターナショナルプログラムについて。正直、これが一番私の心配な部分です。

メールでのご質問にある教育学区（このコラムでは特定名は使っていません）は、私の経験上はお勧め出来ません。

私自身は1994年から2004年までカナダBC州の公立高校のインターナショナルプログラムに深く関与していました。



まだ、数校しかプログラムを始めていなかった頃から立ち上げにも協力しました。しかし年を追うごとに、カナダの高校生は学費を払わない公立高校に年間100万~150万の学費を持ってきてくれるインターナショナルプログラムは、財政難の各学区の大きな財源となり、次第にビジネス化していきました。

「これはしてはいけない。」「あれはダメ。」「この権利はホストにはあるが、留学生にはない。」などなど、インターナショナルプログラムを確立させるためにどんどん規則が増えて行きました。

縮小する権利の中で、留学生を守るために教育委員会のお偉方や政府相手で大立ち回りを演じたこともあります。

そんなプログラムにでも、高いお金を出してカナダに来る子供たちの質は必ずしも高いとは言えませんでした。動機も行動も。問題を起こす子供が出るたびに「これはしてはいけない」リストはどんどん長くなりました。

(ご質問の学区のlegal agreement も読まれたと思います。長い禁止リストですね。)

「留学生は人間ではなく、商品だ」と最終的に判断した結果、いわゆるインターナショナルプログラムというものは2004年に手を切った次第です。

2004年頃には異常に増えて来たインターナショナルプログラムの中でも、worst の中に入ったのが、残念ながら、おたずねの学区です。高級住宅地であり、裕福なカナダ人たちが多く住むこの地域では、それを売り物にプログラムを展開しています。経済的にも恵まれ、優秀なカナダの高校生も多いです。

しかし残念ながら、インターナショナルプログラムはその地元とは隔離された存在で、いわゆる評判のあまりよくない「留学生」というステレオタイプの中に置かれます。そのステレオタイプ留学生の数が非常に多いこの学区では、その中から「自分の存在」を作り、現地のカナダ人に受け入れられることはほぼ不可能だと感じました。

(見切りをつけてからほぼ10年ですが、きらびやかで表面的なwebsite からは留学生を取り巻く環境が劇的に180度変化したとも思えません。ただ、現在はBC州の高校留学には直接関与しておりませんので100%確実ではないことをお断りしておきます。)

6. 13歳で親のいない留学生活はお勧め出来ません。

アメリカで過ごした3年間はお両親と一緒に、精神的にも安定したよい経験が出来たと思います。それと、今回予定されているカナダでの単独留学とはまったく異なるものであることを認識してください。

13歳では親のいない単独の留学は難しいものになると思います。ホストファミリーは親ではありません。毎月お金を払うビジネスの関係です。13歳でも独立した人間としての付き合い方が必要です。その準備の出来た13歳は稀だと思います。

高校生でも親の不在が大きな挫折につながったケースがバンクーバー周辺でも星の数ほどあります。

将来カナダでの大学進学、ひいては移民を目指す韓国・中国などの富裕層は子供を小学校の時から留学させます。しかし、子供だけをポンと送るのではなく、まず家を買って、そこに母親と子供がやってきて住み着きます。子供は母親の庇護のもと、留學生活を送ります。

それでも家族という安定感からは少し離れるので、うまくいかないケースが後を絶ちません。母親が英語が出来ず孤立してしまうことも問題です。

もし、息子さんの中学留学にお母さんが同行なさるとか、近い親類が現地にいるとかであれば、状況はかなり違うと思います。そして、その場合でも、大きなインターナショナルプログラムを避けられることを心からお勧めします。



ご質問内容に合わせて、それぞれ別個の回答になりました。
それほど、若年層の留学とは難しいものであることをご理解下さい。

質問者の方と同様、日本の教育制度を否定し、Critical Thinkingでの教育をと希望されている親たちは非常に多いと感じます。しかし、現状、若年層がマイナス点なしで留学をするには障害が多すぎるのも事実です。

〈今すぐバンクーバーの高校に留学したいです〉 Aug.31, 2014

高校2年生です。1ヶ月の語学研修で日本の英語教育が最低なことに気がつきました。



そんな日本で英語の勉強を続けるより、早くもっと真剣に英語を勉強したいと思い始めました。今やらなければ遅くなるとも思います。

うちは大学生の兄が一人、今年中学受験を控えている妹が一人います。経済的にも厳しいと考えた僕は高校を転校してしまえば経済的にもそして、自分のためにもなるのではないかと考えました。

「今行かなければならない理由」をうまく両親に説明出来ません。

これらを両親に話しましたがなぜ今留学する必要があるのか？どうして焦るのか？と反対されています。母は実情を知りません。ですから、日本の大学に入ってから留学するか、日本の高校を卒業してからカナダの大学に入ることを勧めています。

どうか、助けていただけないでしょうか？

がっかりなさるでしょうが、「**お勧め出来ません。**」

数えきれないほど多くの高校生・中学生・そして親たちからご相談を受けているご質問です。

そして、ほとんどの方の「留学したい」理由は同じです。

「日本の教育はダメだから。」

確かに「日本の教育」は最低です。その部分は正に正論だと思いますし、その中でうんざりし、焦る気持ちもよく理解出来ます。

しかし、「留学」はあなたが思うほど簡単ではありませんし、手数料を稼ぎたい「留学業者」が説明するような「バラ色生活」でもありません。

過去、多くの方に回答した内容を織り交ぜながら「なぜ勧められないか」を説明していきます。

1. きっかけが語学研修というのが実は結構危ないです。

短期の語学研修、ホームステイにより誤った「バラ色」認識を持ってしまうことが多いです。

業者や学校などがすべてお膳立て、友達も一緒。

現地では「どうせ英語のわからないお客さん」として扱われるので大きなストレスを感じることもありません。

遊びの中に申し訳程度の「英語ごっこ」をする体験は楽しくないわけがないですね。

実際の留学は、そんなに簡単ではありません。

おそらく、日本を離れて3か月以内に大きく落胆し、立ち往生すると思います。

2. 高校留学の場合、卒業に必要な単位をすべて取得しないと卒業資格はもらえません。

今まで普通に日本で教育を受けていた生徒が留学する場合、まず卒業までに5年は予定してください。

バンクーバーのある、カナダBC州の場合、[卒業には80単位取得](#)が必要です。

卒業に必要なコース単位はGrade 10（高校1年レベル）から含まれます。

留学時点で日本の高校2年生であろうとも3年生であろうとも、このGrade10レベルから始まります。

各高校での単位履修後は州の試験に合格しないと単位はもらえません。

つまり、11年生レベルには進めません。

しかも同じレベルで勉強するカナダの生徒たちは、生まれた時から英語で育ち、クリティカルシンキングの素養を持ち、Grade10になるまでに入念な準備教育を受けて来ています。

そんな生徒と同じレベルの内容を同じ教室で、いきなり出来ると思いますか？
無理ですね。

外国人のとして英語準備のクラス（ESL）に1年以上入れられたのち、やっとGrade10レベルに上げてもらえます。それも実力が上がればの話です。

今からこれだけの苦勞をし、5年かかってでも高校留学したい理由はありますか？

次に、親の言うように日本の高校を卒業してカナダの大学に行くとしたら：

やはり英語の準備と、クリティカルシンキングの基本を身につける必要性はもっと大きくなります。

上記の高校レベルをすべてクリア、州試験にも合格し、英語言語自体は問題のないカナダの学生と同じレベルの勉強が出来るまでには、時間がかかります。

また、日本の高校で優秀な成績を取っていたとしても、TOEFLiBT（TOEICや英検は何の役にも立ちません）で90点ないと大学には入学出来ません。

そのレベルの英語能力がつくまでは、やはりESLで勉強させられます。

（ESLは卒業単位になりませんので、ESLの間は追加の期間、つまり学費も生活費もその分余計にかかります。）

日本の高校で普通に勉強していた人が、カナダの大学レベルにたどり着くには（個人差が非常に大きいですが）1年から3年かかります。

そこから大学の単位を取っていけるようになりますので、大学学士号取得には5年～7年は予定しておく必要があります。

あなたの留学にはそのマイナスを補えるほどの目的と意義がありますか？

2. 留学費用について

質問を読む限り、少し勘違いをしているかなと思いました。

バンクーバーへの高校留学にはかなりの費用がかかります。

まず学費は年間カナダドルで\$13,000から16,000が相場です。

各教育学区により多少の違いはありますが、大体このあたりです。

これにホームステイ（月\$750から950）。

サポート費（高校生はこれなしには無理ですね。勉強のサポートも必須です。）。

後見人費用（未成年には法的後見人が必要です。業者のサポート費用に含まれることが多いです。）

医療保険。その他生活に必要な費用。

などなどを含めると、まず年間300万～400万は必要です。

それが、5年間かかるとなると、親には大きな負担となります。



ですから、日本の中学卒業までに十分な能力を付け、「高校留学で得た卒業資格」が自分の将来に絶対に必要であるという、明確な目的を持った人にも、高校留学が意義を持つわけです。

さて、どう思いましたか？

折角「留学したい！」と大いなる希望を持っている高校生のあなたには非常に酷な現実ですね。

過去の相談者の50%くらいの方は、「私の夢を壊さないで下さい！」と私の話を信じたくないようでした。

そんな時、「じゃあ、行ってから壊れるのを見るしかないですね。」と心の中でつぶやきます。それは余りにも将来への大きなツケになりますが、「バラ色留学信仰」を否定するのには抵抗があるようです。

〈「高校留学したけど卒業出来ない！」現実について〉

Jan.18, 2015

留学業者、また留学フェアなるものに誘われるまま、カナダに（どこの英語圏も同様だと思いますが）高校留学し、結局卒業出来ない結果に終わる問題は未だに解決されていないようです。

公立高校が受け入れてくれるのはいいのですが、カナダの同級生と同じ単位を取得しなければ卒業は不可能だという現実を明らかにしないまま、「バラ色メガネ」で見た留学をしてしまうケースが多いのが現実です。

留学生の払う授業料は各高校にとり大きな収入であり、留学業者も手数料稼ぎと、「卒業が非常に難しい」という現実を伏せたまま簡単に送り込む詐欺のような「高校留学事情」。

留学生をお金儲けの商品化している現実には心が痛みます。

このような問合せをいただきました。

息子はBC州の高校のグレード10から入り今グレード12に在学しています。

高校から卒業が難しいと連絡がきました。Communication English12がとれないのではというのです。家庭教師を付けて、息子も努力し、合格ラインに届くようにがんばっているみたいです。

本当に単位をもらうのはそんなに大変なのでしょうか？

また、卒業できなかつたら落とした単位を別の教育機関で再履修すると言っておりますが、それは可能なものなのでしょうか？

日本から留学した高校生が、カナダの高校から卒業資格はもちろん、正式な単位を取得することは非常に困難です。

生まれた時から英語で育ち、15歳までにクリティカルシンキングの基本が出来ているカナダの同級生と同じレベルのことを勉強するわけですから、簡単なわけはありません。

ブリテッシュコロンビア州の高校卒業規定について詳しく書いているリンクを提示しておきます。

[\(British Columbia, Graduation Requirements\)](#)

数年ごとに見直される卒業規定は留学生に大きな影響があることなので、留学業者にはすべてを開示して説明する義務があると考えます。

ところが、残念ながら、「非常に難しい」現実を説明すると手数料が入るはずの商品である留学生の数が激減することを恐れ、何も語らず送り込む業者があとを絶ちません。

卒業規定は2014/2015向けにまた変更がありました。

選択の幅が広がったのですが、英語での勉強に悪戦苦闘する留学生には大したプラスではないようです。

卒業資格のうち、English, Math, Science の基礎的なコースに合格する必要があることを以前にも増して強調しています。

48単位は必修コースから取得。

28単位は選択科目から。

4単位はGraduation Transitions Program から。

上述必修48単位は下記の通りです。

SUBJECT AREA Minimum Credits

Planning 10 4

Language Arts 10* 4

Language Arts 11* 4

Language Arts 12* 4

Mathematics 10* 4

Mathematics 11 or 12* 4

Fine Arts and/or Applied Skills 10, 11 or 12* 4

Social Studies 10 4

Social Studies 11 or 12* 4

Science 10 4

Science 11 or 12* 4

Physical Education 10 4

TOTAL 48 credits

この中の Language Arts 12の中におたずねのCommunication 12が含まれます。

また、卒業に向けては、単に学校のコースに合格するだけでなく、下記のコースについては州試験に合格する必要があります。

Graduation Program Exams :

Grade 10 Language Arts

Grade 10 Science

Grade 10 Mathematics

Grade 11 or 12 Social Studies

Grade 12 Language Arts

特にGrade 12 Language Arts に関しての州試験は厳しく、全成績100%のうちの60%が学校での成績、残りの40%はその試験結果が使われます。

留学生にとっては、非常な難関試験です。

Grade10から留学なさったと書かれていますが、Grade 10 Language Arts, Science, Mathematics の州試験は合格なさっていますか。

留学1年目で、特にGrade 10 Language Arts の州試験に合格することは相当難しいはずですよ。

仮にそれに合格なさっていたのなら、今 Grade 12 Language Arts で苦勞することはまず考えられないので、少々不思議に感じています。

業者の手数料、学校側の授業料収入などのビジネス上の都合で、10年生の試験の成績が悪くても、学校の成績でかさ上げされることも考えられます。

留学1年目でいきなり落第させると、次から留学生が来なくなりますから。

各学校への留学生からの授業料収入はかなり魅力的なものなので、多少の便宜を図ることもあるのではと思われます。

ただ、さすがに卒業のかかるGrade 12 の試験に関しては、業者も学校もお手上げなのが現実でしょう。

追加ですが、Language Arts 12 のうち、University進学に必要なのは、English12 です。

Communication 12 は、カナダ人高校生でもUniversity に進まない生徒、English 12 を取る能力のない生徒が取る簡単な方のコースです。

Communication12 に合格し、卒業に必要な単位は満たしても、University に進みたいければ後日English 12 を取り直す必要が出て来ます。

カナダの教育制度の非常に良いところなのですが、何度失敗してもやり直しの道を用意してくれています。

カナダ人でも高校を卒業出来なかった人が、社会人になってから卒業資格を取りたくなった場合にも、足りない単位さえ満たせば資格をもらえます。

そんな受け皿として、夜間コースなども充実していますので、「別の教育機関」というアドバイスがあったのだと思います。

ただ、日本から高い授業料を払い留学している高校生には、追加の時間も授業料もかなりの負担になります。

この説明も、留学前に業者からきちんとなされるべきものです。



息子さんのその他の状況については書かれてありませんのでこれ以上のアドバイスは難しいですが、もしCommunication12が無事に合格した場合でも、どこかの機会にぜひEnglish 12 を履修・合格なさることをお勧めします。

将来どの国で進学なさろうとも、結局は必要になってくる大切なコースであり、カナダの高校卒業・成績証明書にはぜひ含んでおきたい単位です。



〈カナダの高校で英語の授業についていけません〉 Nov.5, 2015

留学中の本人、高校生からの相談。

そのほとんどが、学校の勉強についていけない悩みです。

全てにおいて困っているというのも多いですが、分野別には English のクラスでエッセイが書けないというものが一番ですね。

日本の思考法そのまま、とにかく浮かんだことを、論理的な組み立てもなく英語にするとエッセイになると思っている場合が多いようで、成績が取れないことにお手上げ状態。

どうして点数が悪いのか見当もつかないようです。

高校を卒業するにはEnglish 10, 11, 12の好成績は必須ですから、途方に暮れてしまいますね。

なぜ、カナダのEnglish についていけないか。

理由は明白なんですよね。

日本で十分な準備をしなかったからです。

日本の普通の勉強のまま、カナダの高校で通用すると大きな思い込みをしたからです。

(あるいは日本の学校でうまくいかないからカナダに。。。なんてとんでもない理由で留学したかも?)

準備も能力もなしですでにカナダの高校に入学し、困っている場合にはかなり難しい状況となります。

もともとの準備が出来ていなかったことは明らかですが、その準備を重点的にする時間的な余裕は本人たちにはないと思います。

学校では日々授業が進みますし、English 意外にも難しい科目をたくさん取らなければいけません。

社会、理科の分野でも、日本のように暗記ではなくクリティカルシンキングを使い、考えることばかりです。

そんな日々の授業に追われる高校生には、今更基本を勉強する暇も精神的余裕もないですね。

仮に Writing を10年生レベルで教えるとしても、学校以外の勉強に時間を取ることはまず無理でしょう。

準備から関わり、直接のサポートプログラムで「小さな町」留学に送り込む生徒たちは、勉強も手厚く助けてました。

というより、それがサポートのかなり大きい部分でした。

週日は毎日、学校で学んだことの報告を受け、宿題の内容をチェックしました。

English のクラスの宿題も、エッセイが大部分ですが、もちろんかなりの時間を割いて面倒を見ましたね。

最初は宿題の意味もわからない生徒たちが、そんなサポート下で3年後にはカナダの大学に自信を持って進学していきました。

このアカデミックサポートしか「勉強についていく方法」はないと思います。

(現在は「高校生サポート」からは引退し、主にボランティアで高校留学のトラブル相談に応じております。学校の勉強面 (English だけに特化してもいいですね) のみ、やる気のある留学生にだけアドバイス出来る場合もあります。)

そうすると、学校の大切なEnglish の授業の面倒も見ながら、エッセイの書き方を指導していけます。

と、過去に数人の生徒に提案しました。

生徒本人は「助かったあ～～」と提案を受けたがったのですが。

親が問題でした。

「カナダに留学しているのに、なんで今更英語の指導を受ける必要があるのかわからない。留学だけでも高いのに、これ以上サポート費など払う意味がわからない。」
だそうです。

カナダの高校の教育内容も知らずに、子供がどれほど苦勞するかも知らずに安易に送った親ほど聞く耳持たずです。

こんなことにならないように、カナダ留学を希望するみなさんは、まずは準備段階で相談してください。

Jan.25, 2016

1994年から10年間、カナダのブリティッシュコロンビア州に多くの日本人高校生を送り、現地では奇跡的と言われた3年での卒業を助けて来ました。当時の州の高校教育過程を最大利用し、能力を持ち、自己努力の出来る生徒なら、徐々に階段をあげるように卒業資格まで押し上げることが可能だったからです。

しかし、簡単ではありませんでした。元々の能力はもちろんですが、その能力を完全に開花させるために、丁寧作り上げる環境が必須でした。

日本人高校生なら誰でもカナダの高校を卒業出来たというわけではありません。

「留学せん事」（一般的には留学は勧めません）という本を2004年に出版したのはそれが理由です。

現在は規定が変わり、日本からの高校生が3年で卒業することは不可能に近いほど難しくなりました。

面白いことに、それと同時に、留学を単なるビジネスと考える業者は、ますます「留学は簡単ですよ。」「楽しいですよ。」と宣伝を始めました。

残念ながら、そんな業者から送られた高校生たちのほとんどが、「留学」に値する能力がないどころか、準備もなしで海を渡った結果、「日本人留学生」の評判をどんどん落として行く結果となりました。

もちろん、卒業なんてとんでもない。

20歳を過ぎても高校卒業資格のない日本人がバンクーバーなどに溢れた時期もありました。（今も実態は同じです。）

ある頃から、さすがの業者たちも「高校卒業資格を取る留学」という文句を引っ込めて来ました。「カナダで高校を卒業するのは難しいですよ。」「うちでは卒業を目指す留学は扱っていません。」という文言が並ぶようになりました。

送った生徒たちの惨憺たる状況の結果でしょうね。

それと、受け入れ先の教育学区、学校から「お荷物は送るな」交渉があったと推察します。

またまたその頃から、少子化の波を受け、生徒獲得に必死になる私立高校が「1年留学出来るカリキュラム」なるものをご褒美にし始めました。

英語圏のどこにでも1年行って、とりあえず何でもして来たら、その分は単位として認めるという、信じられないほどいい加減なご褒美です。

ご褒美をもらったのは「きゃあ～～留学出来る～～」と喜んだ高校生だけではありません。とりあえず1年送ればお金になるという、非常に楽な「留学ビジネス」です。

「卒業までのサポート」など必要ない、ただ送り込んでおけばいいだけの「商品」を扱う「留学ビジネス」です。

受け入れ先の教育学区も楽なもんです。

真剣に将来に向けての勉強の手助けをする必要もありません。

とりあえず、まあ理解出来そうなクラスに入れておけばいいだけです。

ESLで上等なわけです。

カナダ人生徒は公立高校の授業料は無料です。

楽ちんでただおいておけばいいだけの留学生は、年間日本円で120万から200万の授業料を払ってくれます。教育学区の予算は大助かりです。

現在見られる「受け入れ先」と「留学業者」の関係は全くビジネスです。

「商品」である留学生の斡旋と搬入、その「商品」を1年間「在庫」として管理する。これです。

さて、ではその「商品」の日本人高校生たちは意義のある「在庫」いや「留学」生活を送っているでしょうか。

Case Study 1: バンクーバー郊外の規模の大きい地区に送られた高校生

大都市周辺、特にブリティッシュコロンビア、オンタリオ州などでは各学校には特別な『留学生用クラス』があります。

ESL (English as a second language)と呼ばれる英語を母国語としない生徒たちのクラスです。

そこで過ごす1年間。



地元の高校生たちは、まずESLにいる生徒には近づいて来ません。

「違うカテゴリー」の生徒だと感じているからです。

能力も準備もなしで送られた生徒たちの、英語のコミュニケーション力も非常に低いことから、つるむのはESLの日本人とだけ。

なんていう状況は普通に見られることです。

「カナダの高校生と友達になれると思ったのに。。」の悲鳴が聞こえてきます。

Case Study 2: “International School” と宣伝を派手に行っている留学生専門の高校に送られた高校生

地元に着し、カナダの社会を経験する機会のある公立高校が大きく門戸を開いている国で、なぜわざわざ留学生だけを集めた高校に行くのかな？といつも不思議で仕方ないのですが。

宣伝に引っかかるのでしょうか。

折角カナダに行く意味がさっぱりわかりませんけどね。

カナダ地元の子供のいない学校なんて。

もちろん、学校の中だけで、寮生活をし、小さな小さな「留学生村」で過ごただけで帰ってきます。

10年前はかなりインチキの悪名高い語学学校だったところが、いきなり「インターナショナルスクール」として宣伝しているのを見て驚きました。

その学校に通う「日本人高校生」から複数の相談を受けたのにも「やっぱり」と同時に「まだ騙されてる。。」でした。

Case Study 3: 「日本人はいませんよ～」と小さな町に送られて、カナダの小学生レベルの授業しか取れなかった留学生

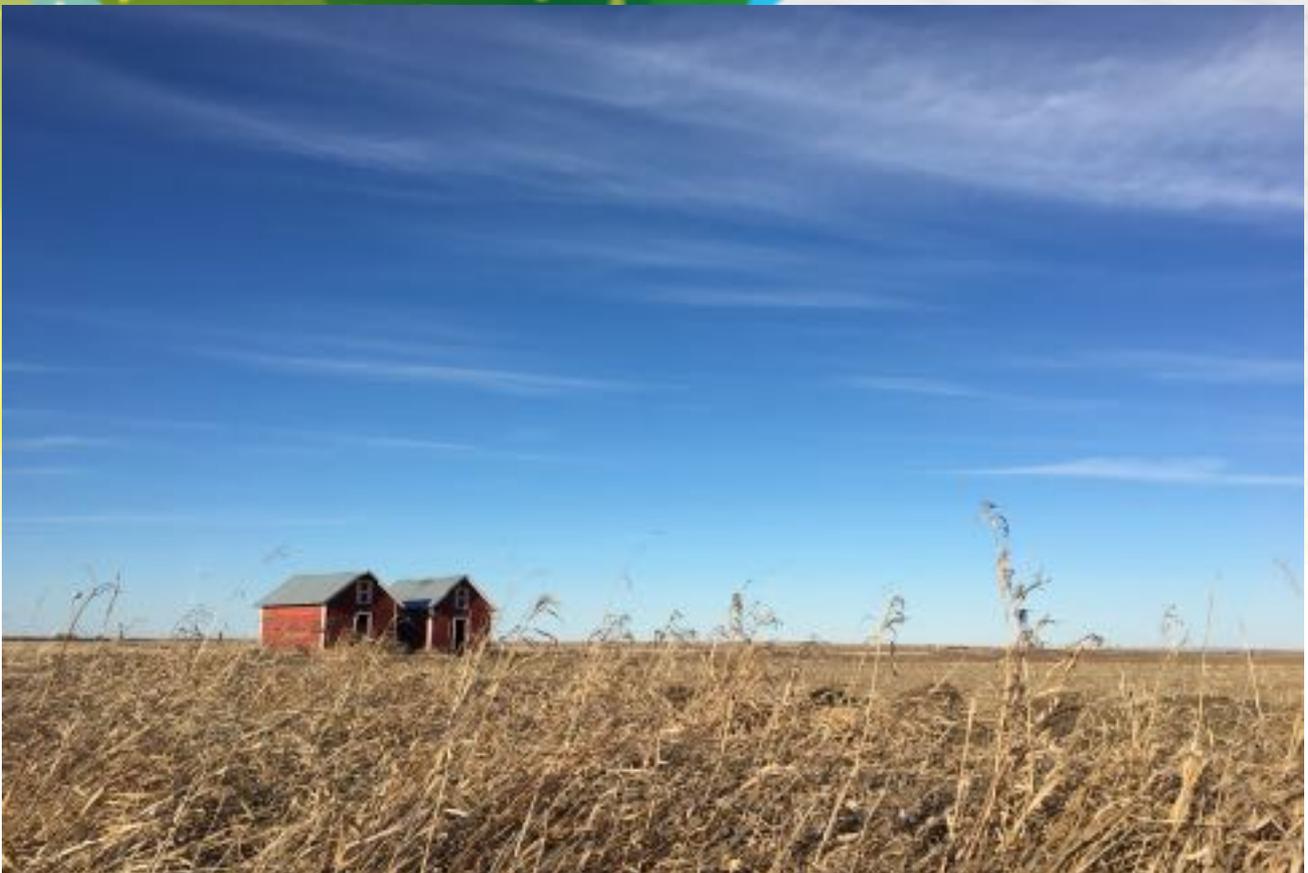
「日本人はいませんよ～」はうそでした。

「日本人のいないところがいいです！」と実情を知らずに希望する日本人からお金を稼ごうとする業者たちは、最近アルバータ州にも目をつけ始めたようです。

ロッキー山脈の知名度を利用したプログラム、「小さな町」にいきなり留学生の寮を立てて、意味のわからない「インターナショナルスクール」もどきを作っているところ。

カルガリーの東にあります。

日本人高校生は、例の「なんでも取って来なさい単位に認めるから」高校から来ていました業者の言い分によると、「一年カナダの高校に通うとカナダの大学レベルの英語力が身につく」だったそうです。



なぜそれを鵜呑みにしたのかも不思議ですが。

小さな高校だからESLはありません。

じゃあ、地元の高校生と一緒にのクラス？！

とんでもない。能力が足りなさすぎるため、すぐ近くの小学校で小学生に混じっての English の授業だったり。

高校のコースに入れてもらっても、“-4”（ダッシュフォー）と呼ばれる、何らかの理由により通常の授業が理解できないカナダ人用生徒のコースだったり。

しかも、18歳の日本人高校生が10年生（高校1年）レベルの“-4”です。

学校サイトとしては、「英語のわからない日本人をどうしてあげたらいいか。。。｣と考えあぐねて悪気はないのですが、まるで「学習に障害でもあるのかな？」扱いです。英語力の余り必要ないコンピューターなどのコースでも、宿題も出さなくてもいい（自分だけでは出来ないの）お客さんだったり（先生が面倒みるのを嫌がりますから）。

地元の良い子たちと友達になり、友達をいっぱい作る！な～んて無理な話です。

町での生活も、業者は適当に新聞でホストファミリーを募集したあと、生徒を置き去り状態。

社会にも溶け込めない、友達も出来ない、娯楽もほとんどない小さな町での1年間は、さぞかし寂しいものだと思います。

日本の中学を卒業後の4月、または高校1年生の9月からカナダの高校に入学し、そこで卒業資格を取得する「高校卒業留学」のサポートプログラムを長年主催しました。

1994年、British Columbia で産声をあげたこのプログラムは、多くの成功者を送り出しつつ、時代の変化、カナダ・日本両国の政治・教育の変化に対応しながら進化して来ました。

その後、留学が制御不可能なまでにビジネス化したBritish Columbia に見切りをつけ、日本からの優秀な高校生に柔軟に対応できるAlberta 州の教育制度と共に歩みました。

1. カナダの高校への留学は、そのレベルについていける学習能力がある日本人生徒のみが目指すべき。

カナダの教育制度に対応出来る学習能力とは、受け身で暗記する日本式能力ではなく、クリティカル・シンキングを理解し、自分から独立して学習の動機付けの出来る能力です。普通に日本の教育制度で勉強しているだけでは、このような学習能力を付けることは不可能に近いので、留学を目標とする中学生は、出来るだけ早い時期から特別な準備訓練をすることが不可欠です。

2. カナダの高校に留学する大きな利点は教育のすべてを吸収し、自分の将来に結びつけることが出来る「卒業資格取得」で最大となる。

カナダの高校の卒業資格があれば、カナダ・アメリカはもちろん、世界の一流大学への進学が可能になります。

日本の帰国子女入試も可能です。

つまり、将来への選択肢が大きく広がることになります。

3. 1年程度の短期の留学（留学より単なる長期ホームステイとでも言った方がいいですが）は、貴重な高校生時代の時間とお金の無駄遣いでしかありません。

何の準備もなし、精神的にも幼いまま「留学」した日本人高校生たちは、1) 日本人留学生の溢れかえるBC州などでは特別なESLという英語の不自由な外国人のクラスに入るだけ 2) アルバータ州では地元が一番レベルの低い生徒のためのコースに入り、そこでゲストとして適当なことをやっているだけ 3) ホストファミリーとは必要最小限のコミュニケーションしか出来ず、学校でも地元の友だちが出来ず、寂しさを紛らわせるのは日本の友達とのSNSか、つるむのは学校内でも外でも他の日本人だけ。

こんな1年間で待っています。

1年を過ぎても、英語力は変わりません。
クリティカル・シンキングの「ク」も理解出来ません。

滞在先での存在感は非常に薄いままです。
帰国してみると、同級生からは勉強面で遅れてしまっています。
能力のないままでのカナダの高校の1年間は、「勉強」とは程遠いレベルだったからです。

親は高いお金を出し損です。
日本での大学進学には何のプラスにもならないどころか大きなマイナスとなり、日本ではそのマイナスは一生引きずることになります。

でも、でも、1年間外国で経験することはいいことでは？
はい。

ただし、本人に能力があり、その1年が自分の将来にどんなプラスがあるのかきちんと計画を持っている場合に限りです。
今までに遭遇した「わあ〜い1年カナダにきちゃったあ」日本人高校生の中ではそんな生徒にはひとりも遭遇出来ませんでした。

3. 短期「留学」生は留学業者にとっては絶好の商品

インターネットにあふれる留学業者の儲け頭は、1年以内の短期の「留学」と呼ぶものです。

特別な準備をするでもなし、適正を調べるでもなし、申しこめば誰でも送ります。
どうせ1年で帰ってくるのだから、どんな環境に入れようがたいした問題ではないと考えています。

送り先は、留学生の授業料をととも必要とする学区です。
カナダの地元高校生には無料な高校の授業料に、日本人は年間100~150万払います。魅力ですね。

留学業者にも魅力です。
「放っていてもいい」短期日本人を送ってくるどんどん送り込む業者には高いリベートが出ます。
6名以上送るとかなりのリベート率になります。

4. 日本政府が企業の協力を得て始めた奨学金トビタテの不可解さ

高校生への奨学金は最初は非常に短期だけであったのが、今年から1年留学が追加されました。アカデミックロンクと呼ぶらしいですが、実態を無視しているどころか、上記業者の留学ビジネス化を更に助長させるものだと思います。大きな危惧を感じています。



1年の奨学金に応募する条件の中で非常に気になるのが：

「留学終了後、日本の在籍高等学校等で学業を継続し、卒業を目指す生徒等」
要するに1年以上外国で勉強する生徒には奨学金は出さない。
こういうことですね。

日本政府の「留学」の定義を聞いてみたいものです。

トビタテのホームページには

「日本代表プログラムの主旨を理解し応募要件を満たすプログラムを有している留学エージェント等」のリストまで出ています。

留学業者たちがロビー活動をしたのかと疑いが出てくる癒着ぶりです。

日本の外の教育者たちが、こんな「短期お遊び留学」をどう見ているかも全く知らないかのような動きです。

せっかく出す奨学金。

もっと本気の、能力のある、将来の日本と留学先をむすぶ役割を担えるだけの優秀な生徒を助けるべきだと心より思います。

5. カナダの良心的な教育学区より

いくらなんでも、カナダの教育関係者たちが声を出し始めました。

以前より「日本からの生徒は勉強には興味がなく文化経験だけですよね。」とされています。

英語が出来なさ過ぎるので、それしかやらせることが出来ないというもの一因ですが、情けない話です。

短期の日本人留学生の質の低さが話題になるたびに、本気の優秀な日本人の評判まで傷つけられたようで悔しい思いをして来ました。

準備も能力もなしでカナダに来るのはやめてほしいと、つくづく思います。

高校留学についてのアンケートを行いました。

子供の外国体験には「はい、とても賛成」が 66.7%！
でも。

そんな親たちでも「高校留学」となると「高校の間は反対」が 47.6%。
なぜ「高校の間は反対」なのでしょう。

またまたアンケートをしてみたい気分ですが、今日のところは長年の経験から類推してみました。
それと同時に現在提供中の「カナダの小さな町で高校留学」のサポート内容の裏にあるものをご紹介します。

「高校の間は反対」のおそらく第一の理由は：

1. まだ精神的に幼いので心配。。。かな？

至極納得

精神的に幼くない 15 歳・16 歳なんてもし存在するのなら、走って行ってスカウトしたいくらいです！

だから、そのために、どんなサポートが必要かということ。

ー 留学先のコミュニティに良い大人のネットワークを作り、みんなで親の目の替りをする
良いホストファミリーも大切ですが、それだけでは足りません。

ー 一歩町に出ると、いつでも声掛けをしてくれるコミュニティの大人たちを巻き込むことが必須です。
留学している町全体でのサポートが必要だということです。

ー カナダ（他の英語圏でも同じ）と日本との違いを認識している大人が日本語で相談に乗る
3 年留学しても、自分の悩みを 100% 英語でうまく表現出来る子供はほとんどいません。

日本人独特のちょっとした目の動き・表情・身体の動きなどから、困っている様子を察しし、先
回りの面倒を見れる大人の存在が必須です。

その大人が、留学先コミュニティの良い大人たちとの橋渡しをうまくやってのける必要があります。

そもそも「高校留学サポート」を始めた理由は、英語指導をしてきた生徒たちが「留学」を希望
した際に、上記のような親の心配、そして必須のサポートを認識している留学業者が存在していな
かったということです。

それなら自分で作るしかない！と。

次なる理由は：

2. カナダの高校の授業についていくには能力がない。。。かな？

これも納得。

日本の教育制度で育った子供に、カナダの 15 歳・16 歳と同等の能力などありません。

これも、あれば全力疾走してスカウトに行きます！

だから、高校留学にはかなりの準備が必要と力説しています。

留学中も勉強のサポートに何時間もかかります。

- まだまだ強化の必要な英語の基本的な指導、宿題のやり方、教科書の読み方、エッセイの書き方、授業への参加の仕方
- 学校の先生たちとの緻密な連携を築き、生徒を全面的に応援してもらえる体制を作る

こうやって、やはり周りの大人たちを巻き込んでのサポート体制が必須です。

そうでないと、留学生だけで寂しく過ごすESLコースだけの留学や、地元の問題児と一緒に低レベルのコースにしか入れないという、悲惨な留學生活になってしまいます。

地元の優秀な子供たちと同じレベルのクラスに入り、その子供たちと友達になれないような留学では意味がありません。

これも、理解している留学業者は皆無でした。

今も同じです。

留学先での勉強の面倒を徹底的にみてくれるサポートはないようです。

「留学先教育機関からの重要事項・成績証明書の翻訳」などを高らかに謳っているのが関の山です。

そんなもの何の役にも立ちませんね。

ある業者のサポート内容を見ると：「入学願書の作成指導と送付」「授業料などの送金代行」「入学許可書の入手とビザ申請書類のアドバイス」「保護者同伴のオリエンテーション」「航空券の手配」「留学生保険、海外携帯電話、クレジットカードの紹介」「空港での出迎えと手配」。。。

留学自体に何の役にも立たないどころか、これで年間50万ほど費用上乘せとなっては目も当てられません。

そんな「何の役にも立たない」業者に送られて、日本の高校生がカナダにやって来ます。

もちろん、地元の良い子たちとはまるで異質な空間で、信じられない低レベルの勉強ごっこをして帰って行きます。

親は自分の子供がどんな留學生活を送っているのかなど、どうでもいいと思っているのではと感じてしまいます。

あともうひとつあるとしたら

3. 本人の意志次第。。。ですか？

そんなに意志の明確な15歳・16歳がいますか？親のみなさんは、その時期に自分の意志をはっきり持ってましたか？

そんな無理な注文で子供の「高校留学」を躊躇するのは滑稽です。

逆に「どうしても留学したい！ 今すぐ！」などと吠える子供のほうが危険です。

「留学」の意味も理解しないまま、「日本の高校受験に失敗した！」「日本の制度が悪い（自分の努力不足を棚にあげて）」などなどの「逃げる！」意識が強い場合がほとんどです。

そんな子供は、留学したとしても数ヶ月でボロが出て、まず失敗して帰国します。

明確に意志を出せない子供に代わって活躍すべきは親です。

親が、カナダの教育制度の意義を見出し、惚れ込んだのなら、一緒に情報を得、子供を励まし、自信を持って後盾になってやること。

これも留学成功の重要な要因です。

その親の自信を後押しするための大切な期間であるのが、留学への準備期間です。カナダの高校に対応するために集中して準備をします。

その間に、カナダで果たしてやっていけるのかどうかの疑問も答えが出てきます。

そして、親子で最終決定するのが「高校留学」の本来の入り口のはずだと思っています。



大きく変化する世界情勢、科学技術の加速度的進歩に対処するための「新しい留学」の形をシリーズでご紹介しています。

カナダの高校正式留学ー卒業資格を得る留学

カナダの高校卒業資格を正式に取得するための留学は、成功率の非常に低い難関です。何年生で何歳でカナダに来ようとも、現地の生徒と同じ必修コースと単位を取らなければ正式な卒業資格(Diploma)はもらえません。

卒業に必要な単位内容、単位数は州により異なりますが、難易度は同じです。

例えばアルバータ州の場合、最小限度の必要単位は下記の通りです。

(大学進学の場合、各大学からそれ以上のコース内容、単位数を求められることも普通です。)

- ・必要単位 100 credits (この中には必ず下記コースを含むこと)
- ・ English Language Art 30 レベル (30-1, 30-2 と分かれており 30-1 の単位がないと大学には入れません。30-1 は非常に難しいコースです。)
- ・ Social Studies 30 レベル (同じく30-1, 30-2 とあり大学進学者には 30-1が要求される場合が多い。)
- ・ Mathematics 20 レベル (大学のサイエンス系のコースを取るためには 30 レベルが必要。)
- ・ Science 20 レベル (同上)
- ・ Physical Education 10
- ・ Career and Life Management
- ・ 他の選択科目の中から10単位

中学までクリティカル・シンキングの基本的訓練を受け、生まれた時から英語で育つ生徒たちと同じ授業を受けられるレベルでないと卒業は出来ません。

日本から留学し英語圏の大学を目指す場合、カナダの中でも優秀な生徒たちの取るコースを終了しないと大学進学資格がありません。

日本の大学に帰国子女として入学予定の場合でも、上記30-1レベルがかなり重要視されているようです。(どうでもいい私立大学に行く場合は別ですが)



カナダの高校卒業資格取得には日本での準備が必須

結論として、日本からの高校留学生在が正式なカナダの高校卒業資格を得ることは非常に難しいことだと判断して下さい。

達成するために絶対必要なのは、中学時代から時間をかけて準備することです。

【英語の文法の基本理解、エッセイの書き方、本の読み方、クリティカル・シンキングを使う論理的分析方法、Scientific Methods の習得、社会性、自立性、大人並みの常識など】

留学後もアカデミックサポートは必須です。

特に最初の年は、個々のレベルに合わせ、宿題のやり方、授業への対処などの日々のアドバイスが欠かせません。

それがないと、受け入れ学校側は「英語の出来ない子」というより「アカデミックコースについて来れない子」というレッテルを貼り、外国人だけのESLコースに入れたり、小学校レベルのコースに入れたり、適当に座っているだけのArtやComputerのコースに入れたりしてしまいます。

元々日本からの留學生は「英語が出来ない」「もともとの日本の学校での成功者ではない」「とりあえず経験しに来ているだけ」「送り込んだ業者も親も学業成績には無関心」という先入観に染まっていますので、そのカテゴリーから抜け出すにはかなりの後押しが必要となります。

残念な先入観ですが「登校拒否」「親の見栄」「日本でうまくいかないの留学でもさせよう」「生徒集めの私立高校がとりあえず何もしないでいいから行ってきなさい」と送られた日本人高校生がせっせと作った先入観です。

そんな状況の中でカナダのSchool Boardや学校に「あなたの生徒をもっと送って下さい。質が余りにも違う！」と言わせるサポートはかなりの重労働です。

不思議で仕方ないのですが、どの業者のサイトを見てもアカデミックサポートは無視、親も無関心。

日本ではせっせと塾通いをさせるのに、もっともっと難しいカナダでの勉強は放ったらかし。28年間首をかしげ続けた現実です。

成功する可能性の高い高校生

28年間の高校生サポートで、カナダの高校卒業Diploma 取得した生徒たちは皆下記の要素を兼ね備えた生徒でした。

1. 精神的に大人
2. 自己動機付けできる
3. 日本の中学の成績が高い（英語が好きかどうかなどは関係ない）
4. 創造力がある
5. 留学への明確な目的がある
6. 親が過保護でない

留学は勧められない高校生

1. 精神的に幼い
2. 常に周りからのプッシュがないと動機付け出来ない
3. 日本の中学の成績が普通かそれ以下
4. 創造力欠如
5. 親が子供を留学させたがる
6. 親が常にしゃしゃり出る

途中脱落の原因はこの6つに凝縮されると言っても過言ではありません。

余談ですが、興味深いパターンも発見しました。

いわゆる似非インターナショナルスクール出身者は成功率が低いです。日本にもかなりあるようですし、マレーシアやタイなどにもインターナショナルスクールは「おいしいビジネス」として存在するみたいです。

英語？出来ません。基本や常識も欠けていることが多い割に、本人も親も「インターに行ってます」という自意識が強すぎてすべての面で前に進めません。

一番悲惨なケースは、小さな時から親がお金に任せて色々な学校を渡り歩き「うちの子は特別」と育った子。

と、口にするとこう聞かれます。

「留学を勧めているんですか？ それとも勧めてないんですか？」と。

答えはいつもこうです。

「原則的には高校留学は勧めません。 まだまだ親元で親の影響が必要な年齢です。 ただし、上記『成功する可能性の高い性格』であればサポートに乗り出すことにしています。」

業者と親にぽいぽい送られて来る悲惨な高校生の流れを止めたいと、2004年には「留学せん事（するな）」という本をパートナーのカナダ人と共著しました。

未だに変わっていないことに心を痛めています。

カナダで迷子になっている高校生は随分いるでしょうね。

上記『成功する可能性の高い性格』を備えながら、カナダ全土に広がる「日本人留学生はレベルが低い」という先入観と孤軍奮闘している高校生もいるでしょう。

現在カナダ在住という強みを使い、そんな高校生の悩みを聞いたり、School Board との再交渉に乗り出したり、アカデミックアドバイスをしたりの活動も始めました。

「え～！そんなことも知らずに来たの？」というケースに愕然とすることばかりです。

現在日本で高校留学を考えている、特に親のみなさん。

じっくり再考し、大学からの留学に備え準備をさせてあげる道もあることを、忘れないで下さい。

カナダの高校卒業を目的とする留学は、それほど難しいことだと認識していただけると幸いです。



〈カナダ留学のこれから - [新しい留学の形]その5・お助け編 Jul.4, 2017

[新しい留学]シリーズの最後に付け足したいこと、実は一番多いCase study。

カナダをよく知らないまま、能力もないまま、カナダの教育レベルへの準備もしないまま、バラ色の夢を描いて、または親の希望で、現在カナダで迷子になっている日本の生徒の数はかなりにのぼります。

実際にご相談に乗ったケースも多々あります。

「そんな事も知らずにカナダに来たの？」と絶句することの方が多いた方が多いのが正直なところ。

悲惨な現実。

この後何年カナダの学校に在籍したとしても、帰国時に自信の持てる能力もスキルもないままです。

「1～2年の滞在で英語が理解出来るようになる」と大きな勘違いをしている生徒（親もですが）が多いですが、そんな簡単に英語が使えるレベルにはなりません。

せいぜい、日常の普通のやりとりに慣れ、返事をするのが早くなる程度です。

内容の深い話しは出来ません。 議論も出来ません。 論理的なエッセイも書けません。

日本に山ほどいる、多少英語が得意だと思っている人たちの仲間入りが出来るかな？程度で終わります。

日本の企業が求めるバイリンガルに近いレベルに到達するには、高等教育（高校・大学・大学院）で正式に5～6年学び、カナダでの社会体験も積むことが必要です。

それらの経験を経てやっと使い物になる英語が理解出来るようになります。

カナダに留学したのはいいけれど、高校卒業出来ない。。。大学に入学出来ない。。。大学を卒業出来ない。。。

英語力もない、専門分野もスキルもない。

日本のルートから外れているので、帰国後は非常に不利だ。

帰国後の現実、より深刻です。

考えの甘い本人の責任とは言え、若い日本人の潜在能力をこんなに潰している「バラ色の留学を謳う業者、受け入れ学校」も大きな罪を犯していると思っています。

では、その悲惨な現実を少しでも前向きに変える提案ことは出来ないか？

カナダでの長年の経験から考えてみました。

カナダのテクニカルカレッジでせめて手に職をつけて帰国する方法。

カナダの公立のカレッジにはたくさんの職業専門コースがあります。

2年間程度のコースも多いです。

もちろん、入学し卒業するのは簡単ではありませんが、無謀な夢の「カナダの有名大学進学」よりは手が届きやすい選択です。

専門スキルが身につき、卒業のAssociate Degree（60単位程度で出る資格で、日本の短大・専門学校卒業資格と同等）がもらえます。

Associate Degreeまで到達したら、英語の運用能力も、自分の分野についてはかなり使えるレベルにはなると思います。

ただし、そのままカナダで就職出来る確率は非常に低いことは認識しておく必要があります。

雇うなら同じ専門スキルを持ち、英語は母国語のカナダ人か、英語に慣れている移民を雇います。

就労ビザの必要な外国人で、しかも英語は不自由（母国語の人には全く渡り合えるレベルではないです）な日本人をわざわざ雇用する企業はほぼないと言っても過言ではありません。

Associate Degree を持ち日本に帰り、普通の日本人よりは英語が出来る。

少なくとも、何も持ち帰れない「留学の末路」よりは将来への道が開けるはず。

日本にいたら何とか専門のスキルにたどり着き、本来の能力が開花出来たかも知れない若者たち。

カナダでよそ者扱いのまま、どこにもたどり着けない現実は本人だけでなく、日本にとっても損失です。



カナダ在住と長年のカナダでの経験を最大利用し、何か役に立てるといいなと考えています。

先にも述べましたように、道のりは簡単ではありませんし、年数もかかると思います。

しかし、折角カナダの地を踏んだからには何かを持って帰りたいと感じたら、こんな道もありだと、脳裏に刻んでおいて下さい。

「留学についての質問」に専門家として回答をしています。

相も変わらず「留学」への仰天するような勘違ひが多いのに驚きます。

「英語も学習能力もない子供が平気で留学し、親もそれを後押しする国」変な国現象にため息をつきながら、今日はこんな回答をしました。

質問：「カナダに高校留学したいです。高校2年生に入ろうと思っています。費用の安い高校を紹介してください。またいいエージェントを教えてください。」

回答：

1) カナダの11年生レベルのコース（高校2年生）に入れるだけの英語力はもちろん、各教科の知識がないと編入は不可能です。

日本から何歳で留学しても、英語能力のレベル、日本で学習した基本科目の習熟度により、取れるコースが決まります。

ほとんどの日本からの高校生は、英語力が悲惨な状態ですので、留学生用に特別に作られたESL（外国人向けの英語コース）に入ります。そこでレベルが上がれば、やっと高校の普通のコースが取れるようになりますが、それもまずは中学生レベルからだったり、余程うまく行った場合でも10年生（高校1年生）レベルから取って行くことになります。

カナダの小学校・中学校・高校ではクリティカル・シンキングを訓練します。生まれた時から使っている母国語の英語を使い、科学的・論理的・客観的・批判的思考法を使い、各教科の内容を分析出来るよう鍛えられます。

特に大学進学を目指すカナダの高校生の取る10年生～12年生コースのレベルは非常に高いです。

ご相談者と同じく、日本の人には、そのようにずっとカナダで訓練され英語が母国語のクラスメートと、同レベルのコースと一緒に勉強出来るという、完全に間違った思っ込みが強いですね。

その思っ込みをカモにして「カナダの高校卒業は可能ですよ」と、誘う留学エージェントにはくれぐれも注意なさって下さい。エージェントは1人学校に紹介すると結構な額のリベートをもらえますので、後のことなど知らぬ存ぜぬ、バラ色の留学を描いて送り込めばビジネスが成り立ってしまいます。



2) カナダの高校を卒業するのは、特別な英語の訓練を受けていない日本人には、まず不可能です。

州により卒業に必要な単位数は異なりますが、80~100程度履修しないと卒業資格は出ません。

授業の成績だけでなく、州の試験も受けますので、日本人留学生には非常に難しいです。

とりあえず卒業だけ出来たらいいという留学生は、大学進学しないカナダ人用の低いレベルのコースの単位を取ってなんとか単位数を満たす方法もありますが、それでも、うまく行って4~5年は最低かかりますし、それらのコースでは大学進学資格はありません。

3) 高校留学の費用は高額です。

年間の授業料、ホームステイだけでも年間250万~300万程度は最低必要です。

学校の勉強についていけない場合は、ずっとESLで我慢するか、いつまでも卒業見込みのないコースにいるか、特別な学習サポート（家庭教師とか）が必要となりますので、その費用もかさみます。

留学の中身、何が待っているのか、どんな能力が必要なのか、カナダの教育制度の詳細などよりも、費用がまず第一義の場合は、留学は難しいと思います。

自分にどんな能力・適性があるのかをよく知り、その上でカナダの教育制度下での利点を熟考した後、州選び、学校選びが始まることになります。

残念ながら、ご相談内容はかなり無謀だと思いますので、賢明な判断をなさってください。

（同様の思い込みをしている方にお役に立てば幸いです。）

〈日本の高校の単位はカナダに移せますか？〉

Oct.9, 2017

「カナダに高校留学し卒業したい！」というお問い合わせを頻繁にいただきます。

必ず最初にお答えすることは「非常に難しいです。」

特に高校2年生、3年生からカナダの高校に移り、卒業を目指したいという希望をよくお聞きしますが、更に難しい状況です。

そんな非現実的な希望はカナダの受け入れ側にも届いているようで、最近何やらきな臭い呼び込みが始まっています。

「需要があるんだから、売らねば！」です。

「卒業出来るかも。。。日本の高校の単位が使えるかも。。。」という非常に複雑でわかりにくい制度で、留学生の払う授業料をとにかく獲得するマーケティング競争が起こっています。

今日は、そのうちのひとつGreater Victoria スクールボードを例に取り、留学生獲得マーケティングの裏を読み解いてみたいと思います。

「仮に本当に日本の高校の単位が使えたとしたら、卒業は楽になりますか？」さて、どうでしょう。

カナダでは各州が規定する単位をすべて満たさないと卒業証書をもらえません。特にLanguage Art (English) 11,12は最難関ですし、この単位がないと卒業出来ません。Language Art12には州の試験もありますので、また更に難しいです。

地元カナダの生徒でもLanguage Art 12は難関で、到底能力が届かない高校生も多いです。

それでも高校卒業資格の必要な生徒は、レベルの低いLanguage 12 (BCではCommunicationという名前、AlbertaではEnglish 30-2と呼ばれます) をどうにかパスして卒業して行きます。

が、レベルを落としたEnglish12では大学には進学出来ません。日本からの留学生が帰国子女で日本の大学に入学する際も同じです。

高いレベルのEnglish12を好成績で合格した卒業資格が必要です。

こんなに難しいEnglish12も、日本の高校の英語単位で置き換えてくれますか？
出来ません。

Greater Victoria スクールボードは1990年代初頭から積極的に日本人留学生の受け入れを行い、私自身もこの中の教育区を数か所訪問したことがあります。
留学生の質より数をというビジネスモデルが気になり、生徒を送ることはありませんでした。

多くの留学生を受け容れる学区では、通常クラスの先生たちに負担をかけないように（労働組合がうるさい！地元の親もうるさい！ですから）英語の出来ない留学生はESLというクラスに入れて隔離します。

一旦ESLに隔離された日本人留学生は、その中で村を作り閉じこもった留学生生活を余儀なくされます。地元のカナダ人生徒たちも「留学生は別物」扱いで寄り付きもしません。

数を入れ過ぎ、そのESLも負担になったようで、新しいプログラムが出来ていました。

Academic Transition Program（4月～8月）という、「留学生？学校に負担をかけるより、留学生だけのプログラムで隔離訓練を！」のようです。高校外で行われ、履修した留学生のみ正式な高校へ行けるという振り落としプログラムで、ますます留学生隔離です。

授業料、滞在費すべて含めて5ヶ月で130万ほどかかります。（得られるものの割には高額です）

うまく行けば4コースの単位（developmental English, mathematics, physical education, and intercultural studies）がもらえるそうです。

卒業単位に数えるかどうかは明確には書かれていませんが、おそらくmath, PEの2つはGrade10レベルの単位として認められ、合格すれば9月からGrade11のmathが取れるのかも。

費用の割に合わない単位だと思えます。

どうも説明が曖昧でもやもやしますので、英語のFine print（小さな字でこっそり書かれている部分）のそのまた裏を読み解いてみました。

エージェントはそこまで説明しないですし（知らないかも）日本の親にも基本的な制度理解なしでは不可解なFine printです。

1. 卒業に必要な単位をすべて取得することはまず無理です

unless they have had considerable instruction in one of Canada's two official languages prior to coming to British Columbia. **（BC州に来るまでにカナダの公用語である英語かフランス語で相当レベルの訓練を受けていない限り）**

明確に書かれています。

2. To ensure language competencies, international students, when working toward a Dogwood Diploma, are restricted in which courses may be used to receive credit through equivalency, external credentials, or challenge for skills and knowledge obtained in a language other than English or French.

(BC州の卒業資格には高い語学能力が必要であるため、英語またはフランス語で履修していない単位【日本の高校の単位】の移行には制限がある。)

3. International students must earn credit for courses in the following categories through instruction from a British Columbia-certified teacher. No Equivalency review or Challenge process is permitted: (次のコースは日本の高校の単位移行は不可)

- Language Arts 11 (これを好成績で履修するにはかなりの準備が必要)
- Language Arts 12 (11よりも更に難関。州の試験に合格することが必要。)
- One of Science 11 or 12 (大学進学するなら12が必要)
- One of Mathematics 11 or 12 (同上)
- Social Studies 11 (同上) (日本からの留学生には難関)
- Planning 10 (誰でも授業に出席すればパスできます)

これら必修コース単位で32、卒業に必要なのは80単位ですからあと58単位必要。

1コース4単位ですので、80単位取得には20コース必要。

1年で8コース履修し、すべて合格したとしても2年半。

好成績で(進学に必須)履修していくには、日本人高校生には最低1年は余分に必要なので3年半。

日本の高校の単位(体育とか)ATPプログラムの単位を認めてもらったとして、半年引いて2年半。ただし、English 12レベルにその2年半でたどり着けばという仮定の話となりますが、クリティカル・シンキングの最高レベルですので、日本人留学生には相当の難関です。

4. International students must be assessed to determine if all the Graduation Transitions Prescribed Learning Outcomes have been met, regardless of the grade level at which they enter a British Columbia school. When the requirements have been met, international students will be assigned four (4) credits and "requirements met (RM)" will be noted on their transcript.

(留学生は本国での成績に関係なく、BC州の卒業規定を満たせるかの判定を受ける。判定が認められれば4単位を取得出来、成績表に記載される。)

一体誰が何を基準に判定するのはさっぱりわかりませんが、何やら評価されるみたいです。

【結論】

Good news:

Grade10に合格してからじゃないとGrade11は取らさない！という意地悪は姿を消しつつあるようです。これは日本の高校から留学する人には有利。

Bad news:

Grade10を飛ばしてGrade11から取れるんだって！という消費者心理を煽る説明にごまかされないように。

カナダで生まれ英語とクリティカル・シンキングで育った生徒が取る難易度の高いコースがGrade11です。

スクールボードがこれだけは明確に記しているように

「BC州の卒業資格には高い語学能力が必要である。BC州に来るまでにカナダの公用語である英語かフランス語で相当レベルの訓練を受けていない限り卒業に必要な単位をすべて取得することはまず無理です。」

を肝に命じて留学して下さい。



留学生の釣りをするように、ほんの少しの単位を移行しますとマーケティングしても、結局のところ難易度は同じです。

日本人留学生のために簡単な卒業コースを用意しているわけではありませんので要注意。

この制度を効率よく利用し、卒業までの年数を3年以内に出来るのは、日本の学校でも学業成績が優秀で（特に理数系。言語中心でないので成功する確率が高い。）クリティカル・シンキングの基本を知る高校生のみだと考えます。

つまり「日本の高校の単位をカナダの高校に移せますか？」

答えは「多分、はい。焼け石に水程度。」

「高校留学」なるものの実体、そのカラクリの裏をご紹介します。

1. エージェントにカナダに送られる子は、まず意味不明なブリッジプログラムなるものに入れられます。

一緒に数ヶ月過ごすのはほぼ日本人。 登校拒否の子、退学になった子、問題のある子、学校の勉強についていけない子、親が持て余している子、みんなごった混ぜです。

日本である程度頑張り、成績を残し、将来に目的がありカナダに留学した子も同じ扱いです。 そこでの人間関係はご想像の通り。

2. そのプログラムでは、カナダでの教育方法に慣れるよう訓練し、英語の準備をします、とか。

準備が出来たかどうかを判断するのはカナダ側です。 エージェントには権限はありません。 送りっぱなし、後は生徒本人の問題です。

「準備完了」とみなされることはほとんどありません。 数ヶ月でカナダの同年代と同じ英語能力、クリティカル・シンキング能力など身につくわけがありません。

「準備未完」の場合、プログラム終了後も現地高校の通常クラスではなく、ESLというまして留学生だけごった混ぜのクラスで過ごすことになります。

3. プログラム成功者には卒業に向けての選択科目として単位が少し出ます！ 日本の生徒に有利です！ とはエージェントの甘言です。

そんな単位は、うまくカナダの高校システムに適合出来た生徒なら、後からすぐに履修可能です。 また、本来選択科目はカナダの社会を反映し、実に役に立つ内容のものが多いです。 折角カナダまで行き、そのチャンスを無駄にしますか？

とにかくどんな方法を使ってでも単位を！がカナダ留学の目的ではないと思うのですが。

4. わけのわからないプログラムの後、現地高校でもESLで隔離され、その後やっと通常の卒業必修コースに入れてもらった（頑張れば）後、直面する現実とは。

English, Social Studies の難しさです。今までの人生で遭遇したことのないレベルの難しさです。

卒業に必要なのは、English 11,12, Social 11（大学進学希望なら12も）ですが、ここでは11レベルを例を上げて説明しておきます。

例えばEnglish11ではこんな問題に出会いますよという実例です。

問題が全部出ていますので、それでもカナダ高校卒業を！という人はやってみてください。

このサイトには選択問題のみが出ていますが、もちろんエッセイも信じられない量を書きます。そのためには毎日何十ページもの本を読みます。

エッセイ問題は例えば、自分が読んだ本をひとつ例にあげて

“Explain the way in which individuals take responsibility for themselves and others”
などを英語エッセイの形式に従い、論理的に、文法も文章構成も高いレベルで書かないと合格点がもらえません。

日本のように、宿題は出せばいいものではなく、合格点レベルに達しなければ進級出来ません

English 12はもっと難しいですよ。
もちろんEN11をパスしなければ
12には上がりません。



Social Studies も日本のように事実を暗記して、それを解答用紙に書き写すものではなく、世界・社会の概念・Ideaを理解して行きます。 11,12レベルでは高度のクリティカル・シンキングが必須です。

例えば：

Explain the challenges facing Canadians as they attempt to reduce the impacts of global warming.

(SS 11レベル)

トピックセンテンスを明確に、それを説明する理由を論理的に、実例をふんだんに使い、反対の立場からのargumentも添えてエッセイを書きます。

文法の単純なミスも命取りになります。 意味が通じなくなりますから。

5. 日本の中学を卒業後、または日本の高校の途中からカナダに行き、数カ月の日本人隔離コースでお茶をにごしたあと、上記English11, Social Studies 11レベルに対応出来ると思いますか？

出来る生徒はほんの数%もいません。

(もともと日本での成績優秀者でも、カナダ高校卒業を可能にするには、11レベルに対応するための個人的アカデミックサポートが必須なのが現実です。)

「無理」と思ったら、選択肢は2つ。

留学はしないこと、または、卒業までかなりの年数がかかることを理解、しかも卒業成績内容では、まずカナダの大学進学も日本の大学帰国子女入学も不可であることを最初から認識し、カナダに来て下さい。

6. 最後に、本気で留学し卒業を目指すなら、エージェントは信用しないこと。

エージェントの用意する器には入らないこと。 あなた個人のための器ではなく、何人だまして何人からお金を取れるかとデザインした器です。

直接希望の学校、スクールボードに問い合わせをすること。 それもするだけの英語力がないのであれば、留学はしないこと。 親もカナダの制度をよく理解し、自分からスクールボード、学校と交渉する度胸がないのであれば、大切な子どもは送らないこと。

です。

厳しい内容だと思いますが、たくさんの日本の子どもの悲惨な運命をこれ以上カナダで見たくない思いでいっぱいです。

自分の将来、自分の子どもの将来、大切に大切に、エージェントのビジネスの犠牲にならないよう祈ります。

エージェントの甘い留学話を信用しきった世間知らずの「留学相談」が多い中、久々に具体的に自主性のある質問に出会いました。

このまま頑張って自分で進め、意義深い留学が出来ますよう祈る気持ちで回答しました。

「カナダに留学をしたいと思っています
行きたい学校は公立の中で探します！

1. 入学する際に試験はないと聞きました！ですが、留学生はどのようになるのでしょうか？英検を持っていないと入学は出来ないのでしょうか？教えてください！
2. 入学は出来たとしても始めはいきなり現地の人と勉強はできませんよね？？
3. もっと勉強をしたいのでおすすめの勉強方法を教えてください！
4. あと、いい資料請求できる場所があれば教えてください！よろしくお願いします

(回答)

カナダで1994年から日本人高校生への支援を行っております。
現在カナダ・アルバータ州在住です。

「高校留学」についての相談の中でも非常に的を得た良いご質問だと思いました。
応援の意味も含めて回答させていただきます。



1. カナダの高校は地域のスクールボードが管轄しています。

スクールボードにより受け入れ基準は異なりますが、大体5段階評価で3～4以上の成績が必要です。

しかし、これも表向きのことで、留学生は高い授業料を払いますので（カナダ人は無料です）それを目当てに少々悪い評価の高校生も受け入れしているのが現状です。

特に留学エージェントが送り込む日本人高校生には、かなり日本での成績が低い、行動に問題のある生徒がいるのも現実です。

行きたい学校を「公立」の中でご自分で探すのはとてもいい計画ですね。

エージェントを使うと、リベートの入る学校しか紹介してくれませんが、自分の希望の留学には程遠い内容になる可能性がありますから。

[「エージェントを使わない留学マニュアル」](#)をコラムにしておりますので、参考にして頑張ってください。

2. 日本の教育制度から、何の準備もなしにカナダに留学した場合、カナダの同年代と同じレベルのクラスには入れません。

英語の能力というよりも、クリティカル・シンキング能力の大きな差です。

[クリティカル・シンキングについてもコラム](#)がありますので、お読み下さい。

カナダの小学校・中学校と通して、生徒たちは徹底的にクリティカル・シンキングの基本を叩き込まれます。

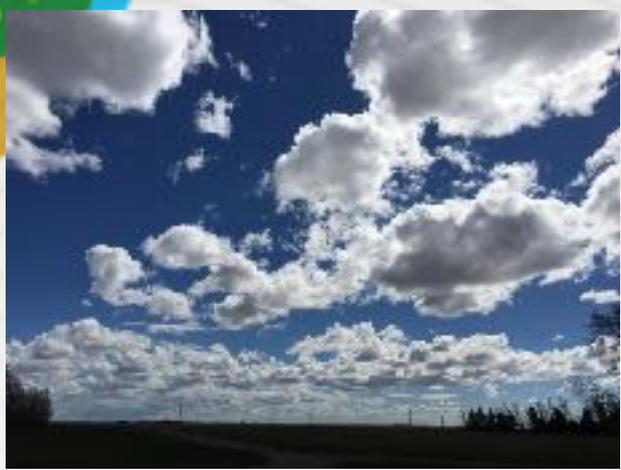
自分で科学的・論理的・客観的・批判的に物事を分析し、抽象的な概念を具体的なことばでまとめる訓練です。

カナダの高校生はこの思考法を完成に近づけているレベルですので、全く何のことかもわからない日本からの高校生は、授業にはとてもついていけません。

カナダの学校側もよくそれを知っていますので、教師の負担にならないように特別なESL（外国人用英語のクラス）に入れられます。

現地の高校生と接することのない留学生用のクラスです、残念ながら。

小さな規模の学校では、入れるクラスがないので中学生と一緒に座ってなさいと言われたり、小学校に送られたりすることもあります。



3. 留学準備の勉強は、英語でクリティカル・シンキングを使ったReading, Writing, Communication の特訓をすることに尽きます。

その中で、文法理解も進みますし、いわゆるカナダ社会全般に存在するクリティカル・シンキングを理解する事ができます。

日本の高校生が留学前にクリティカル・シンキングを完全に理解するのは不可能ですが、それが何たるかと知ること、**「なぜカナダで勉強についていけないか」**のわけがわかります。

そこから努力を始めることができますからね。

何の準備もなしにカナダに来て、なぜ授業がチンプンカンプンで、年齢相応の授業に入れてもらえないかも理解出来ないまま、迷っている日本人高校生がカナダにはいっぱいいますよ。

かわいそうですが、余りにも「留学」を甘く考えすぎたツケですね。

4. 留学エージェントには頼らないこと

お仕着せの、みんな一緒プログラムのパンフレットを用意してカモを待っていますよ、エージェントは。

スクールボードからもらいうりべートで成り立っているのがエージェントの仕事ですから、あなた個人の特性・目的など関係なく、他の留学生と同じ枠に入れられてしまいます。

今はインターネットで何でも調べられる時代です。

それを大活用し、自分で学校を探し、自分で交渉し、自分だけの大切な留学を目指して下さい。

〈『日本人高校留学生』の現実 - これでも「留学」しますか?〉

興味深い相談に出会いました。

バラ色の夢が消えてしまったかも知れませんが、相談者の高校3年間で悲惨な「日本人高校留学生」にならないようアドバイスしてみました。

(質問)

すごいショックです。

三年間高校留学したかったのですが、親に反対され、諦めて一年間の交換留学で行って思っていました。

でも、私の高校は、一年留年になるそうです。
留年はしたくないので、どうしても外国に行かせてくれない私の人生。

カナダで高校生してみたかったです。

立ち直れる方法教えてください。

(回答)

残念ですね。

大きな希望を胸にご自分の将来像を描いていたことと思います。

カナダから「立ち直れる」情報をお伝えしましょうね。

カナダで、日本からやって来る優秀な学生たちのアカデミックサポートを1994年以来続けています。

「準備なし・能力なし・クリティカル・シンキング能力なし・エージェントお任せ」高校留学は絶対しないこと！というコラムもたくさん書きました。

私自身がカナダで目撃した悲惨な日本人高校留学生の運命を順を追ってお話しします。

1. カナダにやって来る日本人高校生の9割以上は「高校卒業資格」を取得出来ずに日本に帰ります。

カナダの高校の授業レベルは高いです。

特にクリティカル・シンキングの訓練が必須な内容の主要科目では、日本人高校生は全く歯が立ちません。

低いレベルの授業、またはESL（外国人用の英語クラス）でフラフラしている間に年数のみ経っていきます。

実は、迷いに迷い恥ずかしくて帰国も出来ず、バンクーバーを徘徊する20~22歳の「日本人高校生」が笑いものになっているカナダです。

2. 能力なしの日本人高校生が留学しても、いわゆる「楽しい高校生活」は望めません。

同年齢のカナダの同級生と交わるチャンスもなく、ESLで隔離された学校生活。

カナダの同級生はそんな「日本人留学生」には興味がありません。

成績もよい、地元の良い子ほど、すでに自分たちのグループが出来上がっており、アルバイトやボランティア活動で放課後もかなり忙しい毎日です。

わざわざ、英語の出来ない「日本人留学生」と友達になりたい同級生はまず存在しません。

居たとしたら、成績の悪い、制度からはみ出したレベルの低いカナダの高校生がマリファナを売りに来るくらいですよ。

3. カナダの同級生と友達にはなれないので、仕方なく他の日本人留学生とつるみます。

そこでは日本の学校より醜い階級制度が出来、小さな小さな日本村が構成されます。

「日本村」で精神的にずたずたになった留学生の話をよく見聞きします。

（*余談ですが、North Vancouver に留学生だけを集めている妙なインターナショナルスクール（もともとはインチキ語学学校でした）が存在しますが、内部の日本村はかなりの醜さのようです。 それにしても、カナダまで高いお金を払って、なんで地元とは接点のない留学生だけの高校に行くのかな？が非常に不思議です。）

4. 1年の短期体験をしている日本人高校生も悲惨です。

能力が低すぎるので、カナダの高校ではなかなか正式な授業には入れてもらえません。

他の生徒と教師の負担が大き過ぎるし、カナダの親から文句が来るからです。

「英語の出来ない日本人」をクラスにいれるな〜と。

高校で過ごす1年間は、コンピュータークラスの隅で「ゲームでもしてて」か、木工のクラスで黙々と本箱などを作るか、障害を持つ生徒のクラスと一緒に低いレベルのReadingをしたり、昼休みも日本人だけで一緒にランチを食べたりと、「この子達一体カナダに何の目的で来たんだらうな」とかわいそうに思います。

5. そんな扱われ方をされても、授業料は100万~150万払います。(地元のカナダ人はただです)

授業料の20%ほどのリベートに目がくらみ、いわゆる「留学エージェント」はバラ色の夢物語で日本の高校生を誘います。

特に、日本の制度でうまくいかない、成績の悪い、素行の悪い高校生が狙われます。

親さえも「日本においておきたくない」子供たちが送られます。

母国語で、親のいる環境でもうまくいかない子供が、異文化で外国語で、しかも守ってくれる大人のない中では、欠点が倍増どころか3倍4倍になって現れてしまいます。

自分の尊厳さえも怪しい状態で、いつの間にかカナダから消えて行くのが末路です。

6. 「日本人高校留学生」には「英語が出来ない、能力が低い、おとなしい、文句を言わない」というレッテルが出来上がってしまっています、残念ながら。

エージェントがリベートに目がくらみ、めちゃくちゃな送り方を続けて来たのも大きな原因です。

そんな中に入ってくる「日本人高校生」もみんな同じレッテルの中に入ってしまう。

7. #1~#6に当てはまらない高校留学生も存在します。

ただし、日本での成績がトップクラス（基本的学習能力がある証明）、スポーツや芸術分野で目にみえる業績があり（カナダの高校は歓迎してくれます）、クリティカル・シンキングを使った英語を運用する訓練を受けてから留学した高校生。

しかも、地元で溶け込むための強力な助っ人がおり（エージェントでは不可能）、親代わりでカナダ側と日本人高校生とをつなぐサポートがある。

となると、かなりの意義深い高校留学が可能となります。

もし、あなたの状況が7番の場合は、チャンスを生かせずとても残念だったと思います。

しかし、そうでない場合は1~6番の寂しい高校生活を免れたということになりますよ。



〈悪化するホームステイ事情—留学生の窮状〉 Dec.21, 2017

ホストファミリー事情についてのお問い合わせをいただきました。

ありゃ、やはり日本の留学生がカナダで（どこの国も同じかもっと悪いかも知れませんが）ホームステイして学校に通う状況は、加速度的に悪化しているようです。

(質問)

子どもがカナダで留学2年目になりますが、今度4軒目のホスト宅に引越すことになりました。1軒目は離婚、2軒目はホストが学区外へ引越し、3軒目は子供の習い事の遠征が多くなり家を留守にする事が増えたという理由です。頻繁な環境変化で落ち着いて勉強できないのではと心配になります。

エージェントを使っていないのですが、教育委員会と強いコネクションのあるエージェントを使っている生徒に良い家庭がきまるのでしょうか？

(回答)

教育委員会は留学生がエージェントを使っていようがまいが、差別することはありません。

むしろ、エージェントを使うと授業料の15~25%をリベートとしてエージェントに払わなければいけませんので、個人でやって来た生徒の方を大切にしたいと思います。

また、ホームステイ担当者はどの生徒がどのエージェントで。。。などには関与していませんので、差別をすることはまずあり得ません。

ただし、これは私の経験から一般的にお答えしているだけですので、カナダの中でもどのスクールボードのどの担当者がどんな役割を持っているのか、スクールボードがどんな方針を持っているのかにもよります。

それでも、エージェントを使う使わないでの差別は、まずカナダではあり得ません。

お子さんの頻繁なホストチェンジの一番大きな理由は、ホストファミリーの悲観的不足だと思います。

カナダのスクールボードが公立高校に日本からの留学生を受け入れ始めたのが1990年代の最初です。

当時は、カナダの人たちも遠い国からやって来る留学生を受け容れることに大きな興味を示してくれていました。

毎月入ってきて、収入として申告の必要ないホームステイ費も魅力ですが、それよりも留学生自体に興味を示してくれる人が多かった黄金時代です。

お金に困っているわけでもない、裕福で大きな家に住む年配の夫婦なども積極的に受け入れをしていていました。

ところが、トラブル続出。

エージェントが誰でも構わず送ってくる留学生の質が悪すぎて、ホスト側が「もう今後いっさい受け入れはしない！」と言い始めたのが1998年くらいからですね。

英語の準備も全くなし、精神的にも子どものまま送られてくる留学生と、ホスト側との信じられないほどの誤解も原因のひとつです。

周りの文化を尊重する姿勢もなく、日本の親から過保護にされていたまま、受け身の生活態度の日本人留学生に疲れ果てたホストもずいぶん見てきました。

困ったスクールボードはステイ費を高くし、ホストの機嫌を取り、トラブルはすべて生徒側の問題とし、ホストを「よいしょ」し始めました。

それでもどんどん良い人たちが抜けていったホストファミリー予備軍を、今度はスクリーニングなしで採用し始めたところもあります。

最終的に残ったのは、ホームステイ費目当てのお金に困っている人たちです。

住宅ローンにあえぐ家庭。

小さい子どもがいて仕事に行けない分をホームステイ費で賄う家庭。

お金も必要で、英語の不自由な移民家庭など。

びっくりする話なのですが、実はカナダの3分の1に当たる人たちは、1日でも給料が遅れると毎月の支払いにも困る状況だそうです。

国としては日本よりはるかにお金持ちのはずですが、とにかく物をクレジットで買いまくり、支払いに青くなっている人が多いのを感じます。

そのような人たちに取り、ホームステイ費は大きなプレゼントでしょうね。



それでも足りないので「ほんの1ヶ月だけでいいから」とか「次が決まるまでの期間だけ」とか無理に知り合いに頼み込むスクールボード担当者。

アルバータ州のあるスクールボードの教育長は、ホスト探しに困り果てて、親類めぐりをするんだそうです。

「頼むよ、生徒をおいてくれないかな？」

「僕の顔をみただけでドアを閉められそうになるんだよ」とぼやいていました。

ということで、解決方法のないホームステイ事情が現状です。

最近では疲れ果てたスクールボードはホームステイ部門を廃止し、外部のホームステイ斡旋団体に丸投げするのが傾向です。

もっと信頼出来ない事態に陥る残念な傾向です。

留学の現実を決して甘いものではないと、ずっと発信し続けていますが、今だに甘い思い込みでやって来る生徒が多いことに心が痛みます。

子どもさんには、日本からの大きな支えが必要だと思います。

良いカナダ人に出会えますように。

〈高校留学の悲惨な現実—エージェントがあてがうホストの実態〉

Jan.16, 2018

エージェントの甘い嘘にころっと騙されカナダに来たものの、夢に描いたホストとは余りにもかけ離れたホームステイの現状に耐えて暮らす留学生活。

SOSが絶えることがありません。騙された親の責任だとも言えると思いますね。なぜ大の大人が、見え透いたエージェントのバラ色話を信じるのか、啞然とするばかりです。

(質問)

今私はカナダの高校に留学をしています。
ホストファミリーを変えようかどうか悩んでいます。

私のホームステイ先ではホストマザーとホストファザーがずっとタガログ語で話をしていて、私が食事の席にいるとに時だけは英語を話してほしい、とお願いをしたのですが、私たちにとって英語は第一言語ではないからそれはできないと言われました。また、私が、この食器はどこにしまったらいいですか？と聞いたところ、ただ指をさされただけで分からなかったので、教えて欲しい、と頼んだところ、物凄い剣幕でタガログ語で怒鳴ってきました。

ホストファミリーが深夜まで帰ってこないことが週に二、三回起こります。深夜まで帰ってこないで夜ご飯はなく、仕方なく果物を口にするくらいです。冷蔵庫の中にも食材は満足にありません。

洗濯は1ヶ月に2回までと決められていて、週に1回、週末に洗濯をさせてほしいと頼んだところ、そんなお金はもらってない、と言われました。シャワーも10分経ったらドアをノックされ、もう10分経ったから早く上がって！と言われます。

水道代も電気代もあなたが払ってるお金じゃ足りないんだから無駄にしないで！と言われます。

(回答)

カナダからのアドバイスです。

カナダで30年近く日本の優秀な学生の支援をすると同時に、嘘で塗り固めた「高校留学」の実態をカナダ現地から発信しています。

ホームステイ事情は加速度的に悪化傾向ですね。

特にバンクーバー・ビクトリアなどのあるBC州には日本のエージェントが群がっていますので、バラ色の夢勧誘に騙された日本の高校生がたくさん送られて来ます。

ホストファミリーの絶対的不足がずいぶん前から問題となっており、ご相談のような話は日常茶飯事なのにも関わらずです。

（他の州にも同じような問題が広がっていますので、今はどこに行っても事情はそう変わらないですね。 田舎の小さな町でも同様です。）

ホームステイ費目当てでホストファミリーになってくれる家庭は、移民家庭がほとんどです。

生活費の一部としてホームステイ費を当てにしており、中には英語も満足に出来ないホストもいます。

「日本に興味のある」「大きな家に住んでいる」「やさしい白人のお父さんとお母さん」がホストになることはまずないですね。

特に日本人高校生はカモにされやすいです。 英語力が低く、日本でも大人とのコミュニケーションスキルが育っていない日本人は文句を言えません。

内気というよりは、文句の言い方を知らないです。

そこにホストはあぐらをかいている状況ですね。

「日本人は文句を言わないから、適当に扱っても大丈夫」と。

そのような現地状況を知らずにカナダに来たこと自体も問題ですが、とにかく今すぐにそのホストは出るべきだと思います。

あなたにバラ色話をしたエージェントがどこまで頼りになるのかはわかりませんし、どのような契約で来ているのかも不明ですが、まずはエージェントに文句を言うべきだと思います。

今までのホストの待遇をリストアップし、ただちに變更してもらうよう交渉すべきですね。

良心のあるエージェントなら、あなたの話を聞き、ホストと掛け合ってくれると思います。

危機感を覚え、ただちに新しいホストを探してくれることを期待したいですが、普通エージェントはホストに強い態度を取れません。（ホストの絶対数不足から）

また現地の担当エージェントが必ずしも、英語でうまく交渉出来るスキルを持っているとは限りませんので（英語が下手な人が多いですよ）余り当てには出来ない気がします。

エージェントが煮え切らない場合は、未成年の高校生に出来ることは限られています。

次なる手段は、日本の親にカンカンになってクレームを出してもらうことをお勧めします。エージェントにも今のホストにも。

ホストとコミュニケーション出来る程度の英語力は、遠いカナダに未成年の子どもを送る親には必須だと思いますが、エージェントにお任せで大丈夫と思いこんでいる親が多いです。

よくそんな無責任に、エージェントを信じられるものだと驚愕ですが、何とか頑張ってもらいましょう。

親の怒りは絶対必要です。

ただし、覚悟しておかないといけないのは、今のホストの家ではかなり気まづくなると思いますし、ホストのあなたへの態度ももっと厳しくなると予想出来ます。

いわゆる逆恨みですね。

そんな待遇を我慢する必要はありませんので、少しでも逆恨みのような待遇が見えたら、すぐにそこは退去した方がいいですね。

あなたの人間としても尊厳に関わります。

学校の友達に事情を話して避難させてもらうか、エージェントの家に避難するか、現地の大人の知り合いのところに退避するかの方法がいいと思います。

そこまでの断固とした行動が必要な現状が、高校留学です。

厳しいですが、勇気を出して進んで下さい。

「大人と同じ精神的強さ」が要求されるのが「高校留学」であることを現実として受け止めながら。



〈語学学校から始まる「高校留学」プログラムには絶対参加しないように！〉

Jan.25, 2018

もぐら叩きのように、次々と出て来る「余りにもカナダのレベルを知らない留学願望」にため息をつきつつ、1人でも悲惨な目にあう日本の高校生を減らしたいと、真実を伝えたいと思います。

エージェントが作った偽プログラムにひっかかった見本のような相談です。

(質問)

中学3年です。高校2年生になったら、8ヵ月留学する予定なのですが英検の準2級に落ちてしまいました。留学してやっていけるのでしょうか。留学までにどの程度勉強すればよいのかと8ヵ月でどの程度まで話せるようになるのかを教えてくださいたいです。ちなみに留学は最初の5ヵ月間を語学学校で、後の3ヵ月間は普通の学校に通う予定です。

(回答)

カナダからの忠告です。

イカサマエージェントの罠に落ち、カナダで悲惨な経験をする日本人を少しでも減らしたいと、現地より真実を発信し続けています。

予定しているプログラム参加は取りやめることを強く勧めます。

留学エージェントが「能力はないけど留学したい！」と知識も情報も、世界の常識もない日本の高校生をだます手口そのままのプログラムですね。

理由：

1. 英検1級でもカナダの高校の、特に、Englishのレベルには届きません。

従って、今から推察出来るあなたの能力では、カナダの高校で通常に授業に入ることは認められません。

通常の授業に入れないということは、現地カナダの高校生と友達になる機会などないどころか、「また英語の出来ない日本人が来た」くらいにしか扱われません。

高校でも全くのお荷物お客さん扱いで、学校の片隅でコンピュータークラスのゲーム程度をやって時間を過ごす毎日になります。

2. 最初の5ヶ月の語学学校は、全くのお金と時間の無駄です。

あなたと同程度か、もっとレベルの低い、日本でうまく適合できなかった高校生たちと同じ所に詰め込まれ、適当に何かの活動が行われるだけです。

授業のレベルも驚愕に値するほどお粗末です。

つるめるクラスメートは、必ずしも行動が常識に沿った高校生とは限りませんので、頻繁に問題が起こります。

周りのカナダ人が語学学校の日本人を見る目は、「またレベルの低い、英語の出来ない、幼児みたいな日本人がつるんで何かやっている」程度です。

カナダ社会との接点はありません。

想像するならば、日本では高校のランクを考えて下さい。

その中の最低クラスの高校生たち、しかも社会のルールも守れないレベルの高校生たちと同じ狭い空間に詰め込まれ、日常行動も共にせざるを得ないと考えて下さい。

日本から何の準備も能力もなし、常識もなし、精神年齢も低いまま「エージェントのバラ色話」にまんまと載せられた高校生たちが過ごす空間が、それです。

3. 英語が出来るようにはなりません。

元々日本での成績優秀、英語能力も高く、独立心をもつ（エージェントのプログラムなどには参加しませんよ）高校生が、カナダの高校で1年くらい過ごしても、「英語力」は変わりません。

少々ホストとのコミュニケーションでの聞き取り（毎日同じことの繰り返しなので）が出来ようになるか、ファーストフードを注文出来るか、クラスメートに何が言われて“Yeah!”程度で返事が出来るようになるだけです。

英語が出来るようになるには、クリティカル・シンキングを理解し、抽象的な概念を具体的、正確な英語で表現出来るようになってから5～6年はかかります。

「留学」は英語で勉強するためにするもの。

英語を勉強するのが「留学」だと騙し続けるエージェントの作るプログラムでは、何の成果も期待出来ないことをよく理解しておいて下さい。

4. 留学するための準備勉強

クリティカル・シンキングの基本の特訓は必須です。

英語すべてに使われるこの思考法は、英語圏の社会全体に存在します。

ホストとの会話もそうです。

カナダの学校では、小学・中学と通して、学校のカリキュラムはこの特訓が目的です。

従って、カナダの高校生たちは、クリティカル・シンキング駆使し、もっと高いレベルで思考出来るための授業を受けています。

そんな中に「は？クリティカル・シンキング？」と余りにも無知な日本人が来ても相手にしてもらえないのは当然ですね。

それと、外国人として英語の国で英語で勉強するためには、確固とした文法知識とその運用力は必須です。

自分の考えをクリティカル・シンキングで表現する際に書く英語が、文法ミスだらけでは全く話になりません。



「予定しているプログラム」には参加しないことを強く強くお勧めします。

相談内容、カナダのレベルの高さ、エージェントが繰り返す嘘、そして、今現在もカナダで迷ったままどこに行き着くのかも見えない悲惨な日本人高校生たちの現状からの忠告です。

人生の非常に大切な8ヶ月が無駄になるどころか、マイナスにもなる可能性が高いです。

現実には悲惨ですよ。

〈カナダ大使館の「カナダ留学フェア」の裏側〉 Feb.1, 2018

「高校留学」をままごとのように考えている質問が毎日毎日続きます。

カナダ大使館が関与する「カナダ留学フェア」なるものは、カナダに高額の授業料を落とす商品探しの場を、カナダの教育機関からのセールスマンに提供している場です。

日本の甘い親子には「バラ色の夢の国」への誘いに見えるのでしょうかね。

(質問)

カナダに高校留学を考えているのですが、自分でやるのはなかなか難しいので、なるべく安くして初心者でも安心できるエージェントを紹介して欲しいです！

カナダ大使館のカナダ留学フェアは役に立ちますか？

(回答)

高校留学には問題が山ほどあります。

無責任に「バラ色の夢」を語り、現実を隠すエージェントに騙され、何の能力もなく、準備もなく、カナダ社会についての知識もなく、送り込まれる日本人高校生の悲惨な現実をずっと見てきました。

手も差し伸べますが、もともとの能力不足、精神年齢の幼さなどが大きなマイナスとなり、何の能力も身につかず、カナダの学校の片隅で寂しい時間を過ごし帰国して行きます。

卒業したいと、世間知らずも甚だしい高校留学をした生徒はもっと悲惨です。

卒業までの道のりも見えないまま、失念し、中卒のまま帰国して行きます。

カナダで生まれ、英語で育ち、社会全体に存在するクリティカル・シンキングの中で能力・スキルを付けたteenager 達が、次なるレベルに向けて思考法を特訓するのがカナダの高校です。

クリティカル・シンキングゼロ、低い英語力、社会経験もない日本からの若い高校生が、同じ教室で同じ授業を受けられるなどと、なぜ思えるのかが未だに不思議でなりません。

日本からの能力の低い高校生は、高い留学生用の授業料を払ういいカモとして見られています。

学校が面倒をみなくても、エージェントが適当にあしらいます。

ホームステイでも、文句を言う英語力もない日本からの高校生は、毎月ホームステイ費を払う単なる商品として見られます。

カナダの高校生たちは、日本から来た英語の出来ない、カナダの常識もない高校生になど興味は持ちません。

そんなあり得ない夢を語るのがエージェントだと理解しておいて下さい。

どのエージェントでも大差ありません。

うまく話しに乗せ、カナダの学校に送り込むことが出来れば、エージェントには多額のリベートが転がり込む仕組みです。

高校留学がどれだけ厳しく、結果が伴わないかなどは口が裂けても言いません。

カナダ留学フェアについても要注意です。

カナダ大使館で行われるので、信頼出来るものだと勘違いをしてしまう人が多いです。

大学などの説明は、役に立つものもあると思いますが、高校留学の勧誘をしている人たちの話しには乗らないように。

カナダのスクールボードには、生徒勧誘の担当者がいます。

能力給の人もいますので、勧誘セールスに必死です。

年中アジアの国を回り、まるで車を売るように自分の学区を売り込みます。

もちろん、バラ色話ししかしてくれません。

今までに何人の日本人高校生が、失敗し、卒業も出来ず帰国したかなどは絶対話してはくれません。

セールスマンですので、話しは上手ですから、そこも気をつけてください。

「ああ、こんないい人がいるならこの学校にしよう。」とまんまと騙される人も多いようですが、カラクリがあります。

留学フェアなどで勧誘する担当者は、あなたが留学した後、まず会うことはありません。

セールス専門だからです。

実際の留学生担当者は別です。

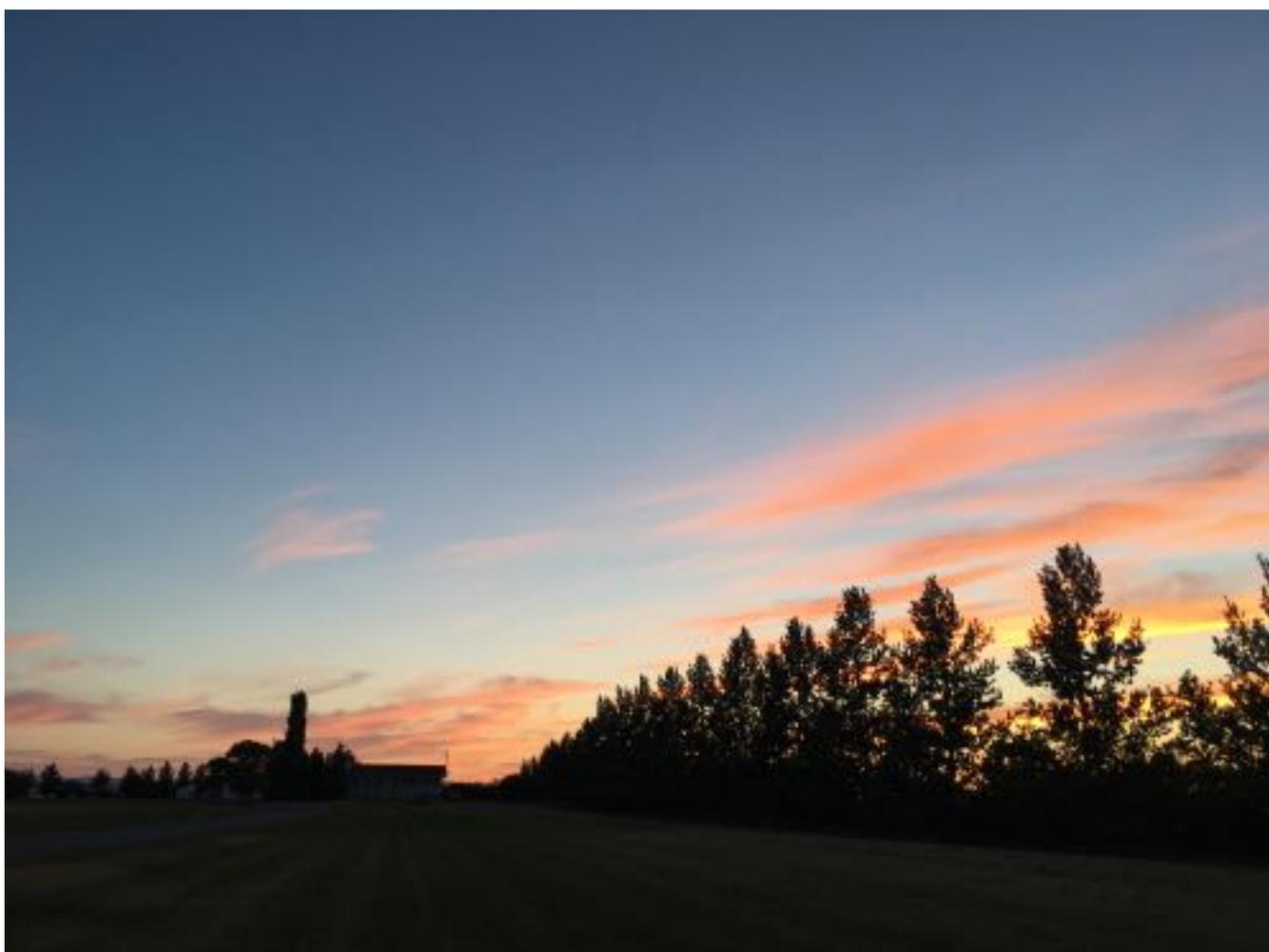
カナダに着いて「話しが違う」と思っても後の祭りですので、要注意です。

「高校留学したい！ エージェントを探さなきゃ！」という思考経路での留学はしないこと。

日本でつけた学習能力に自信を持ち、日本で十分能力を身に付け、英語のクリティカル・シンキングの基本も学び、準備の出来た高校生のみ「高校留学」の意義があります。

そうでない場合は、大切な人生の一番楽しく大切な部分を失ってしまうことになる可能性が限りなく高いです。

自分の実力、自分の人生を熟考してみてくださいね。



カナダから真実を語り続けていますが、未だに甘い甘い日本人高校生がたくさんカナダにやってきました。

この「イカサマ高校留学」をどう止め、犠牲になる日本人高校生を減らすことができるか、カナダの教育関係者達にも働きかけています。

〈高校留学したけど「卒業」出来ない日本人高校生へ〉 Feb.13, 2018

“I told you.” 「だから言ったのに。」をそのまま体験している相談に出会いました。

30年近くの留学生支援の経験から、「高校留学の現実」を叫び続け、少しでもエージェントの犠牲になる高校生が減るよう活動していますが、なかなか「夢」を信じて「真実」を見ようとする人が少ないのが問題です。

この質問が、注意喚起になればと願います。

(質問)

現在カナダのリッチモンドに留学中の男子でG11です。留学して半年が経ちましたが、このまま留学を続けるか、日本に帰るか考えています。

予定としては、当初G11から留学して、二年間でこちらの高校を卒業し、日本の大学を帰国子女枠かAO入試で受験するつもりでした。

しかし、ELL（英語の出来ない留学生用のコース）のレベルが現在2で、来年3に上がるのですが、4まで上がらないと卒業に絶対必要なEnglishの単位がとれないため、卒業は絶望的という状況です。

(回答)

カナダで30年近く、日本からの優秀な学生の支援をしています。

高校留学に関する偽情報は気分が悪くなるくらい低劣です。

いわゆる留学エージェントが「カナダの高校卒業は簡単ですよ。日本の単位も移行出来ますよ。と見え透いたバラ色夢を語り、それにコロッと騙される親子が後を絶ちません。

カナダ現地からの「高校留学」の醜い真実を伝え続けていますが、「夢を壊さないで下さい！」と文句を言われることも多々あります。

「じゃ、行ってから夢を壊して下さい。」としか答えようがないのが現状です。

この質問は、正にそんな嘘情報に騙されてカナダに送られた日本人高校生の叫びです。

人生のスケジュールが大きく狂わされたツケは大きいです。

カナダの高校の卒業規定は非常に厳しいです。

特にENGLISH 12に関しては、州の試験と授業での成績をあわせた得点で合否が決まりますので、留学生にはかなりの難関です。

もともと学習能力も高く、日本での英語レベルも高い生徒が留学した場合もENGLISHでは大きな苦勞を強いられます。

大問題なのは、エージェントは誰かれ構わず送り込んで来ることです。

送らないとビジネスが成り立ちませんから。

日本での落ちこぼれ、登校拒否、成績不良者、努力もせず、自分の（または子どもの）不出来を日本の教育制度や学校、教師のせいにしたがる高校生が、（親も強く希望し）ポンポンカナダに送られて来ます。

「留学はカッコいい!」「英語がしゃべれるようになりたい!」と、まるで旅行にでも来る感覚で、精神的にも非常に若い高校生が送られてきます。

母国語でも、親元でも何かを成し遂げることが出来なかった日本人がカナダの高校に投げ込まれます。

同級生であるカナダの15歳は、生まれた時から英語で育ち、クリティカル・シンキングが周りにある社会で成長します。

小学校・中学校まで学校ではクリティカル・シンキングの特訓を受け、その思考法を理解した生徒のみが、高校の高いレベルのコースを取れます。

社会での体験も豊富で非常に大人なのがカナダのレベルの高い高校生です。

そんな同級生と同じクラスで同じコースを取り、同じ年数で卒業出来ると思い込んだ日本人親子は、余りにも世間知らず、考えが甘いです。

そこにつけこんで「大丈夫、出来ますよ。」と嘘で背中を押すのがエージェントです。

この質問者へのアドバイス。

日本への帰国しかないですね。



本当に信じられないほどの幼さで（親もです）高校留学してしまった日本人の英語理解能力はとてつもなく低いことも驚く現実です。

中1に戻って英語の総復習をしないとどこにもたどり着けないよと、アドバイスした高校生はかなりの数に登ります。

もちろん、本人たちは、勉強の仕方も、努力の仕方も知りません。

大多数は、静かにカナダから消えて行きます。

日本でへ、その後どんな人生を歩んでいるのでしょうか。

「カナダに留学しました！」と自慢するのでしょうかね。

能力がない場合、高校留学は絶対しないように。

〈「カナダ高校留学、そして中卒のまま帰国」これが現実です〉 Feb.14, 2018

カナダに高校留学したものの「卒業」なんてはるか雲の上。。。と気が付き始めた相談が目につきます。。

「だからあれほど忠告したのに」と言いたいところですが。

わざわざ高いお金を払って留学して、この相談者のような将来が見えない状況に陥るケース、後を絶たないと思います。

「カナダの高校留学失敗」の先には何も残りません、可哀想ですが。

日本の教育制度のトップレベル能力がないと、カナダの高校卒業は不可能なことが、体験者の声で明るみに出てきました。

(質問)

現在カナダのラングレーに高校留学中で、高校卒業後は日本の大学に進学希望なのですが、このままこっちに残って卒業するか、切り上げてAOなり一般入試なり普通に受験するか、どちらが日本の大学に入学し易いですか。

能力的に、Adultgradしかとれそうにないこと。(カナダの高校卒業資格にはAdultgradとDogwoodというふたつの区分があって、Dogwoodと言う正式な高校卒業資格と違い、Adultgradは取得単位数が少ない代わりに、カナダの大学に進学することができません。)

実は、Adultgradさえちゃんと取得して卒業できるのかも自信がありません。日本の通信制高校に同時在籍しているため一応高校卒業できますが、そうなると、AO試験で大学を受験し手持ちの武器は留学経験と英語能力試験の結果だけです。

(回答)

カナダからのアドバイスです。

30年近く、日本からやって来る優秀な若者が大学・高校の卒業資格を取る支援をしています。

ラングレーとも一時期お付き合いがありましたが、余りにも「留学生を商品化」するスクールボードの態度に辟易とし、それ以後関わりには一切ないようにしています。

アドバイスは：「日本に帰国し直すこと」です。

理由は次の通りです。

1. Dogwood Diplomaに届かないのなら、カナダに留まってもお金と時間の無駄です。

カナダBC州の高校生はDogwood Certificateが将来への資格です。

そこから大学への将来が開けます。

Dogwood に届かないカナダの高校生は、かなり知的能力が低い生徒か、勉強からは大きく逸れてしまった生徒です。いわゆる問題児も多いです。

そんな生徒が大人になり、「高校卒業資格が必要だ！」と後悔したあと、やり直せるような制度を作ったのがAdult Graduation Diplomaです。

ですから、19歳以上のみがその制度を使えることになっています。

カナダの大学への進学はAdult Graduation Certificateでは出来ません。

日本の帰国子女入試、AO入試なども、余程定員割れがひどくて誰でもいいから学生がほしいと思っている大学以外、おそらく正式なDogwood Diplomaしか認めていないと思います。

あくまでも、その年の各大学の方針次第でしょうから、100%確実ではありませんが、まず見込みは薄いと思います。

Dogwood Diplomaを5年もかけてやっと取り、帰国したものの、English12ではなく、簡単な方のCommunication12の単位しかなかった生徒は、受け入れ大学は非常に限られ、かなり低レベルな大学しか受け入れてもらえなかったそうです。

私が現在活動をしているアルバータ州では、-1（ダッシュワン）レベルというコースのEnglish30-1の単位なしでは、カナダの大学進学は出来ません。 English 30-2というレベルがぐんと下るコースの単位でも高校卒業資格はありますが、大学進学は出来ません。

日本の大学の帰国子女出願の要項にも、アルバータ州高校卒業者はEnglish30-1が必要という記述が多いです。

BC州のDogwood Diplomaも同じように扱われる可能性はかなり高いです。

2. Adult Graduation Certificateにも届く自信がない、あるいは年数がかかり過ぎるのなら、カナダでずいぶん無駄な時間を過ごすことになります。

恐らく、まだEnglish10にも手が届いてなく、ESLで勉強している段階なのかなと推察します。

もしすでにEnglish10に上がることを許可され、その中でカナダのEnglishレベルにショックを受けているのなら、おそらく相談前に「日本に帰ろう！」となっているかなと。

もし、未だにEnglish10に手が届いていない、または、単位が取れる見込みがないのであれば、カナダでいくら頑張っても卒業にこぎつけるにはあと最低3年は必要だと思います。

Adult Graduation でも同じです。

English10, 11を終わっていないければ、English 12またはCommunication12でさえも履修が許可されません。

特に、留学前に英語の思考法クリティカル・シンキングの準備も全くなし、英語の運用力も低いままでカナダに来てしまった場合、高校の出口にたどり着くことはほぼ不可能です。

3. 成果のない数年の「留学経験」「英語能力」は何の武器にもなり得ません。

高校留学で何も達成出来ずに帰国したケースは日本に山ほどあります。

日本の大学もそれはお見通しのはずです。

(願書さえだせば入れる経営難の大学なら別ですが)

そんな「留学経験」はプラスには見なされないと思います。

また、English10,11にも届かない英語能力は、日本で頑張って受験勉強をした生徒より高いとは思えません。

TOEFLiBT 80以上レベルでもあれば、「さすがカナダで勉強した成果」と認められると思いますが、まず不可能なスコアだと感じます。

もし、このスコアが可能な能力を持っているなら、Dogwood Diplomaをあきらめて、カナダの高校を卒業出来なかった大人が頼るAdult Graduation Certificateを目指そうなどとは考えないと思いますから。

留学前にもっと現実を知るべきでしたね。

「留学」の現実を日本に向けて発信し続けていますが、「現実」を信じたい人は少なく、エージェントの夢物語を必死で信じて海を渡る高校生が多いです。

大きな人生勉強をしたと思い、日本で頑張ってください。

そして、「留学の現実」を日本で発信してください。

あなたのような犠牲者を出来るだけなくするためにも。



〈カナダの「高校留学制度」は穴だらけ

ーカナダのメディアCBCがようやく現実を報道〉 Feb.23, 2018

“The system is full of holes”: Experts say young foreign students left vulnerable by unregulated industry

[高校留学制度は穴だらけ：未成年の高校留学生は規制の存在しない「留学産業」の中、無防備で弱いまま放っておかれているのが現状] ([CBC レポート](#))

長年声を大にし、日本の親たちに発信し続けている「高校留学の悲惨な現実」が、ようやくカナダ側のメディアにより取り上げられました。

「ほら！」と、大きな味方を得た思いです。

留学エージェントの語るバラ色の大嘘、カナダのスクールボード担当者が「嘘の塊、カナダ留学フェア」で語る「セールストーク」

その先に待っているのが、ここで報道されている現実です。

CBCの記事からの抜粋

「何十万人という高校留学生が世界中からカナダにやって来る。 15歳や16歳。 またそれよりも若い生徒まで。 その留学生たちは、新しい未知の国で、スクールボードからも、州政府からも、連邦政府からも、留学産業からも、適切なサポートを受けることなく、危険にさらされている。 留学産業には厳しい規制が必要である。」

「移民サービスセンターの長であるWong-Tam言：規制の存在しない「高校留学」産業内では留学生達は詐欺の犠牲になり、本来は生徒たちの健康と安全を守ることに責任のあるはずの機関・人間の手の中で不当な扱いを受けている。」

「高校留学」が規制のない産業の中で、金の成る木として独り歩き

1. カナダには後見人制度があり、未成年が留学するには後見人を指定する必要があります。

この後見人制度が、エージェントには実にボロい儲けとなっています。

後見人には、ホストファミリー、スクールボード内の誰か、後見人斡旋サービス、留学エージェントのどれかがなるのが普通です。

そのために親は年間\$1000~2500の費用を支払います。

この金額は、どんなサービスを業者が提供するかによって異なりますが、ただ単に名前を貸すだけの後見人がほとんどです。

ある留学生はなんと、年間\$13000も後見人に支払いました。

親元を離れる子供を心配した親が、特別なサービスを要求したからです。

ところが、その後見人は、緊急の場合でも電話に出ず、急病の場合でもやっと翌日になってから連絡が取れる始末。

おまけに、病院までの送り迎え費用として\$300を要求したそうです。

何もせずに\$13000、プラス送り迎えだけでプラス\$300!

ボロ儲け過ぎて、止められないはずですね。

そんなカナダの内情とつるんで日本の親を騙し続けるエージェントも、相当ぼろい儲けが手に入るのが「高校留学」の実態です。

2. ホームステイも、留学産業の目玉です。

留学生はだいたい毎月\$900~1300程度をホストファミリーに支払います。

3度の食事と、寝る場所の提供と引き換えに。

ところが、ところが、こんな事が後を絶ちません。

「16歳の留学生。カナダに来てまもなくホストとの間がギクシャク。ホストの家が学校から遠いこともあり、近い場所への移動を考えていることをホストに話しました。その夜から「夕食が出来たよ」との声かけがなくなりました。お腹を空かせて寝る日が続きました。ホストの家ではひとりぼっちで部屋に閉じこもり、寂しさのあまり泣くことも続きました。」

特に日本からの留学生は、幼さもあり、文句を言うスキルがありません。

何をされても泣き寝入り。

自分が何か悪いことをしたに違いないとの、自己破壊が始まります。

ちなみに、ホストは毎月受け取るホームステイ費は確定申告の必要がありません。

ボランティアとしての報酬とみなされるからです。

ですから、お金の必要なカナダ人、生活の安定していない移民家族には、実にボロい儲けとなります。

3. スクールボードやエージェントは勝手に自分たちの規則を作ります。

国や州の規制が存在しない「高校留学産業界」では、当事者が勝手に何でもルールを作れます。

後見人にしても、特に何の責任も明記しないまま、お金だけが飛び交います。

ホストファミリーにも、一応のガイドラインはありますが、それが適用になりホスト資格を剥奪されるなどは、まず起こりません。

お金の余裕があり、外国そのものに興味を持つカナダの家族はホストなどに興味はありません。

幼いまま親元を離れた未成年の面倒など、真っ平ご免ですから。

従って、ホストの質は異常な低下を続け、ホームステイ代だけをはたき儲け、面倒もみない、ろくなものも食べさせないホストが多いのが現状です。

現在、カナダのホストファミリーの大多数は移民家庭です。

英語を話さないホストも多いです。

4. カナダの国は「高校留学生」の権利は保障してくれません。

数々の訴えが移民局に持ち込まれますが、相手にされません。

「留学生」の権利を守るのは、カナダの国の責任ではありませんから。

20年近く前のことです。

バンクーバー郊外のラングレー市スクールボードの「留学生プログラム」の実情をBC州政府に訴えました。

自分勝手なルールと、留学生は授業料さえ払っていただければいい、それ以上は何もするなという態度に呆れ果てたからです。

留学の真実を外にバラすなど、脅しも来ました。

「口をつぐんで、私達と一緒に儲けていただければいい。」との脅しです。

留学の膿がどろどろ渦巻いている地域でした。

オンブズマンも参入してくれ、かなり州政府に突っ込みましたが、結果は厳しいものでした。

州政府も真剣に取り上げてくれましたが、こんな返事が来ました。

「カナダ政府には留学生の権利を守る責任はありません。ホームステイも、スクールボードとの契約も、国が関与することではありません。留学生のカナダでの地位は、単なる短期滞在の外国人です。」

高校生の留学サポートから全面的に撤退したのはこれが引き金です。

それ以降は、カナダ現地から真実を発信しながら、トラブルのSOSに対応したり、自己動機のある日本人留学生に特別なアカデミックサポートを提供したり、何とか日本の未成年がカナダで無事に過ごせるよう支援をしています。

しかし、それよりも声を大にしたいのは「**高校生留学はしないこと!**」

これが、あなたを、あなたの子供を待っている現実です。

カナダのメディアが今後どう動くか、注目して行きたいと思います。

〈「高校留学 of 凄まじい現実」 一体験者の声特集〉

「留学」はバラ色の夢ではない。

Feb.25, 2018

厳しい現実と直面した体験者の生徒、親からの声が集まり始めました。

「エージェントの甘い話」に騙されて「留学」の罠に落ちる人がなくなるようにと、日本に向けて警告を送り続けて来ましたが、体験者の応援の声は大きな力です。

非常に迫力のある体験者の声をご紹介します。

1. 何も知らない日本の親子 (2005年)

(2004年に出版した本「留学せん事」へのコメントをいただきました。)

「この本に書いてあることは決して大げさではありません。

1990年、すでに文部省から各都道府県知事宛に、高等学校生徒の留学で各種の問題が生じているという報告書が送付されています。

1993年にも高校生の交換留学問題は国会で取り上げられており、当時すでに高校生の四人に一人が何らかのトラブルに巻き込まれていることが「衆議院会議録」に書かれています。

子供でもわかるような被害レベルのものから、大人ならわかっても16~18歳ではごまかされてわからないもの、

バテていないだけのものまで含めると、ホストステイ先でのトラブルは実際はもっと多いと思われる。

外国語の能力が無いに等しい高校生が未知の国に足を踏み入れる留学では、たとえ被害にあってもわからない場合もあるでしょう。

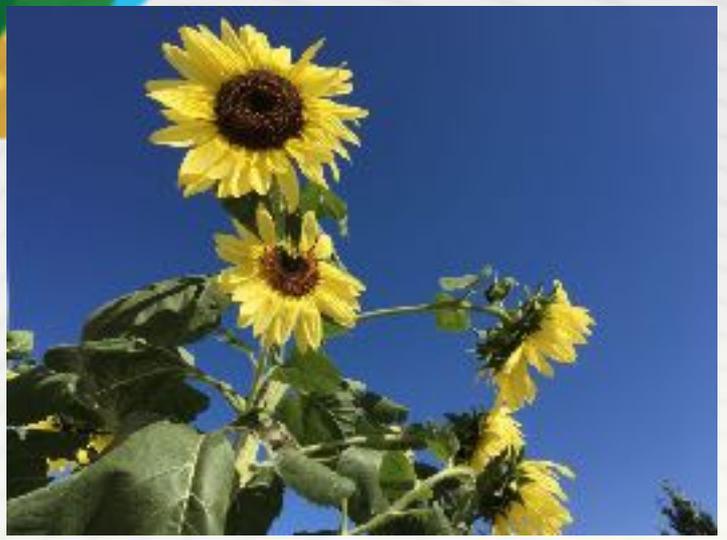
親も問題です。

被害があっても気づかない、留学団体にうまく丸め込まれて納得する親がいることも、被害を助長させていると思われる。

また、交換留学、1年の短期留学などでは滞在期間が10ヶ月なので、少々のトラブルなら子供が帰ればそれで終わりとなります。

被害に遭って留学団体を訴えようとする親もいるのですが、海外での事だけに難しく断念することが多いようです。

このように、被害やトラブルがあっても個人レベルではどうしようもない、国も何もしてこなかった、ずっとこのような状態のまま半世紀が過ぎてしまいました。



ここまで多いトラブルの原因は？

一番に考えられることは、高校交換留学にとって必要な無償の受入家庭が、イギリス、カナダ、ニュージーランド、オーストラリアなど英語圏の国々ではほとんど無いにもかかわらず、そのことを伏せて留学生を送り続けているからです。

ホスト家庭の犯罪歴についても、個人情報保護法があるので、AFSやYFUでさえも調べることはできません。

極端な場合、前日まで刑務所や精神病院にいた人でも、現地スタッフが知らなければホストになれるのです。

現地スタッフもボランティアに頼っている状況ですが、肝心のボランティア制度そのものがほとんど機能していないのです。

この状況が変わらない限り、どの斡旋団体で行っても被害に遭わないとは言い切れないでしょう。

(大澤真知子：私費留学の場合は、ホストは有償で留学生を受け入れますが、これに関してホストの絶対数不足から、質の危機的低下が見られます。その結果トラブルが絶えません。)

よほどの被害やトラブルでない限り、帰国した子供から聞かされてはじめて現地での酷かった状況を知ることになります。

ましてや性的虐待を受けた場合は心にしまい込む高校生がほとんどだと思われます。

(大澤真知子：性的虐待については、数々の相談を受けて来ました。AFS交換留学生もいますし、カナダでホストファーザーに性的虐待を受けた中学生男子などもあります。BC州のラングレー市です。親が裁判に訴えようとしたが、スクールボードに丸め込まれ泣き寝入りしました。)

2. 留学説明会は詐欺 (2017年)

日本の各地で留学説明会が盛んに行われています。

カナダ大使館主催の「カナダ留学フェア」も同じです。

甘い話ばかりです。

お金さえ出せば楽しい海外生活と現地高校卒業、そして帰国子女枠で大学入学というセットがGETできると笑顔の誘惑ばかりです。

特に日本の学校に対して不満があって成績低迷してる子や不登校の子がターゲットです。

親も、自分の子がうまくいかなのは日本の学校のせいだと、責任転嫁している人が多いです

しかし、そんな子が現地に行くと1週間くらいで現実を知り即挫折で帰国か、ボロボロになって現地で過ごす・・・(結局上手くは行かない)です。

大澤さんのような方にお話頂きたいのですが、そうするとエージェントの儲けも無くなるので難しいのですね。

(大澤眞知子：エージェントは絶滅すべきだと思います。そのために「留学」の嘘を暴き続けていく覚悟です。次回の帰国時には、本当の話を聞きたい方たちともお会い出来れば幸いです。)

3. 留学先で不登校になりました。(2017年)

まさに！

(大澤さんの)書かれていることは真実です。

留学している高校生の親ですが、子供が現地で不登校になり精神疾患に陥りました。

エージェントの語るバラ色の海外生活を夢見て渡航しましたが、想像を絶する困難と孤独の中で折れてしまいました。

それだけでも非常な困難なのに、エージェントがどっと送り込み、多すぎる日本人同士のコミュニケーションの難しさでした。

留学最高～のブログは沢山ありますが、真実を書いているものは見たことがありません。

やっぱりお金にならないと・・・なんですね。

(大澤眞知子：真実を書くと「傲慢だ」「ひどい」「夢を壊さないで」と批判もたくさん舞い込んで来ます。「じゃ、行ってから「夢」が壊れるのを実際に体験して下さい」と答えることにしています。)

4. 楽しいはずの10代なのに、留学の代償は辛すぎます。 (2017年)

エージェントの笑顔に釣られ留学したものの、我が子だけではなく多くの子どもたちが、理想と現実のギャップに苦しんでいると聞きました。

乗り越えられた子は大きく羽ばたくのかも知れませんが、越えられなかった子は挫折と共に悲しく帰国することになります。

楽しいはずの10代なのに辛すぎます。

5. 「留学の凄い現実」は真実です。 (2018年)

いつも頷きながら読んでいます。

子供を英語圏に高校留学させている親です。

あまりにも凄い現実が綴られていると思って読んでいる方も多いと思うこちらのブログですが、他国でもさほど変わりはありません。

最初は、大量に留学生を受け入れる高校へ入学し約1年学びました。

その殆んどをESLで過ごし、それ以外は、英語力をあまり必要としない美術、音楽、そして日本語の授業を選択させられました。

まさに教室にいても現地生徒の邪魔にならない科目です。

ESLの授業内容はお粗末で「CAT」という文字を見て猫と把握するとか・・・黄色いカードを見て「Yellow」と答えるような授業だったそうです。

留学生たちは馬鹿にするなど怒りましたが、子どもの力ではどうすることもできませんでした。

そんな授業を普通は約3年間受けます。なので3年後の語学力は日本にいた時とほぼ変わらず、ひねくれた性格だけがプラスになります。

高校側はアルファベットが分からない子でも受け入れOKですと明言しています。

その上、クラスの殆どが日本人で毎週新しい子が入学するため、雰囲気も大変悪く我が子は不登校になりました。

よって私自身（親）が現地に直接行き、本人と話し合い、エージェントではなく、親子で見学し選択した高校へ転校させました。

間違いのないようにと、私立高校で学費も増額となりましたが、ここまで違うのかと驚くような内容でした。

先生のケアも厚いし、日本人の数も一桁です。

くれぐれも、エージェントのセールストークには乗らないで下さい。

どうせお金をかけて留学をさせるのであるならば、親の目で現地を確認し自分たちで選択して進んで欲しいです。

子どもがつぶやいたこと「周りの沢山の日本人の高校生は、帰れるならば今すぐにでも日本に帰りたい！と全員同じこと言ってた」・・・そうです。

また、平昌オリンピックで銅メダルを取った原大智さんもカナダの高校に留学しましたが「楽しい事はなにもなかった・・・」とコメントを残しています。しかし、メンタルはかなり鍛えられ今回のメダルに繋がったようです。

これからも学生たちの将来を潰してしまわぬように強く訴え続けて欲しいです。

（大澤真知子：貴重な体験談ありがとうございました。大きな力をいただきました。）



甘いな～と毎日相談内容に呆れています。

エージェントさえも断る「高校卒業目的の留学」になぜ固執するのかな。

日本で余程うまくいかなかったんだらうと思います。

「留学」は逃げ道ではないですし、憧れでもありません。

現実を見据えること！

【質問】

来年の9月からカナダに3年間留学予定なのですが、エージェントがなかなかいい所が見つかりません。

ディーサイドや留学ドットコム？を視野に入れてましたがディーサイドはカナダオフィスがなく手数料が半端ではない、留学ドットコムは私が希望している公立高校への卒業留学のプランがないとの事でやめました。

エージェントに頼らずに行ったら？と言われましたが手続きが分からないんです。

AbbotsfordにあるAbbotsfordse senior secondary school で殺人事件が起きたのですか？そこを希望していたのですが少し不安です。その高校がある地区はすごく田舎ですよね？

【回答】

カナダからの忠告です。

元々の高い学習能力・英語運用能力・クリティカル・シンキング能力なしで「高校留学」特に「卒業を目的とする留学」をする日本人高校生の惨状を現地カナダから報告し、多くのコラムを書いていますので、まずは参考までに読むことを強くお勧めします。

[「カナダに高校留学を考えている中学生の皆さんへ忠告」](#)

[「高校留学の凄まじい現実－体験者の声特集」](#)

[「カナダの高校留学制度は穴だらけ－カナダメディアCBCがようやく現実を報道」](#)

1. カナダの高校は、一般的な日本人高校生のレベルの低さをよく知っています。

何の準備もなく、英語も出来ず、日本の学校の成績さえもトップクラスではない高校生が、精神的に幼いままで送られて来る現実もよく知っています。

ただし、留学生の払う非常に高額な授業料は、スクールボード・各高校にとってはかなり魅力的で、とりあえず、学校隅で時間を過ごして帰って行くだけの日本人高校生はいいカモです。

英語が出来ないので、何の文句も言いませんし、親もおとなしく授業料を払うだけで、学校には何の発言もしないですから。

絶好のカモです。

しかしながら、レベルが低すぎて、スクールボードや学校は日本人高校生の面倒をみたくはありません。

低レベルのため、通常の授業に入れられず、生活面でも英語が出来ないために、面倒のみようがありません。

従って、エージェントにすべてお任せで、トラブルがあっても文句を言わないエージェントを選び、数名ずつ受け入れているのが現実です。



エージェント自身も、トラブルがあっても日本人生徒を守るのではなく、学校・スクールボードの機嫌取りに終始します。

生徒ひとりを送ると授業料の15～20%程度のリベートをもらっているのがエージェントです。

それプラス、実際は何もしないサポート費とやらで高額の請求するエージェントはとんでもない詐欺だと思って下さい。

2. カナダの高校は「卒業目的」の日本人高校生は受け入れたくないのが本音です。

1990年代最初から始まったカナダの公立高校留学生プログラム。

授業料収入に目がくらんで始まったプログラムです。

でも、蓋を開けてみると、レベルの低いこと、低いこと。

まるで日本においておいたら恥ずかしいので、親がわざわざ高い授業料を払い、カナダが面倒をみることを期待して送り込んでいるような状況に、さすがのカナダも方針変更しました。

1年の短期は大歓迎。

正規の授業ではなく、留学生だけのESL、または現地カナダの高校生の邪魔にならないよう、英語の必要ない体育とか金属加工とかのクラスの隅で時間を過ごさせる1年間。

何の英語能力がつかなくても、問題にもならず日本に帰っていってくれますから。

学校には責任はありません。

トラブルがあればエージェントに押し付ければいいですしね。

ところが、卒業目的となると話は別です。

学校にはそれを助ける責任が出て来ますから。

しかも、過去の苦い経験で、日本からのレベルの低い高校生がカナダの高校制度の卒業資格を取ることは、まず不可能だと知っています。

「嘘」をついてまで、「卒業出来るからいらっしゃい！」とはスクールボードも学校も言いません。

リベートほしさに、「卒業は簡単ですよ」と嘘をつくのがエージェントです。

現在、多くのスクールボードは、日本人が「高校卒業目的」で来ることを拒否するようになりました。

来てもらっても、卒業はおろか、10年生レベルのコースが取れるまでに2年程度はかかるケースが普通ですから。

10年生レベルのコースに上がってから、また数年かかります。

学校にとっても、そんな生徒を抱えていると、州の教育省の査定に引っかかり、問題となる可能性もありますので、「日本人？ 卒業目的？ NO！」の傾向がどんどん広がっています。

その傾向に押され、「卒業目的の留学は取り扱っていません」というエージェントも増えて来ています。どうせ、トラブルが起こるのは目にみえていますし、わざわざカナダの学校が嫌がる長期の留学生など紹介することは避けたいと思っているようです。

3. 本当に自分に能力があると思い留学を目指しているなら、必ず自分で直接スクールボードに連絡すること。

日本の学校での優秀な成績証明書と共に、問い合わせを出すと、丁寧に対応してくれますよ
こんな優秀な生徒が、しかもひとりで出願！

これはぜひうちに来て欲しい、しかもエージェントに払うリベート分がなくなるので、絶好の生徒だ！と。

[「留学エージェントなしのマニュアル」](#)もコラムにしていますので、読んで見て下さい。

ただし、日本でのトップクラスの成績と、英語の高い能力、精神的に大人であることが条件です。

4. アボッツフォードはインド系移民が多く暮らす町で、移民間のギャング抗争が結構頻発します。

大学生年齢の生徒たちをアボッツフォードのUFVでサポートしていますが、彼らはもう大人ですので、カナダの常識を学んだ賢い行動を取れます。

治安は決していいとは言えませんので、親から離れた15～16歳が暮らす場所としてはお勧め出来ません。

また、留学生授業料を儲けようと、たくさんの留学生を受け入れている地区ですので、ESLコースで外国人留学生だけを隔離する形でプログラムが組まれています。

ESLの講師は頻繁に変わりますが、以前訪ねた時には「日本人大嫌い」雰囲気のパンプンする中国人女性が講師でした。

日本人高校生にはキツイでしょうね、そんなESLは。

昨年の殺人事件は、外からの侵入者の無差別殺傷事件でしたが、カナダ全国の大きなニュースとなりました。

「9月から3年間留学予定」は大幅な見直しが必要だと重ねて忠告しておきます。

日本で成績優秀な場合でも、3年で卒業するのは相当なチャレンジです。

ほとんどの「卒業目的」日本人は中卒のまま途中帰国か、仮に頑張ったとしても4～5年はかかることも認識しておいて下さい。

[「高校留学の凄まじい現実」—体験者の声特集](#)に続いて今回は「交換留学団体」AFS経験者の驚くべき生の声です。

何とかこの悪い連鎖を止めたいとの悲痛な声をお聞き下さい。

カナダ・アメリカの「高校留学」の「大嘘」を日本に向けて発信を続けています。1994年以来カナダ現地から、アメリカからのSOSから、たくさんの真実の声を拾い上げて来ました。

2004年には「留学せん事」という本も出版、人生の大切な一部を台無しにする10代の若者を少しでも減すことが出来ればと活動しています。

しかし、「留学団体」「留学エージェント」の語るバラ色詐欺話しに騙される親子が跡を絶ちません。

「悲惨な話」より「バラ色話」を信じたい人間の弱さでしょうか。

海を渡った瞬間「悲惨な高校生」の仲間入りをしてしまい、楽しいはずの10代を失くしてしまう現実に立ち尽くす日本の高校生たち。

それでも勇気を振り絞る日本の若者の声をお聞き下さい。

AFSを通してでのアメリカ交換留学中です。

AFSは歴史も長く、規模が大きい、ということでAFSを使いました。

AFSはオリエンテーションという名の説明会が沢山あります。そこでは、甘い留学話を聞かされました。

現実はかなり違っていました。

AFSにはリエゾンという現地のサポート係が1人に1人必ずつきます。

しかし、実際は、何ヶ月もリエゾンと連絡が取れなかったり、そもそもリエゾンが居なかったり。私の友人のリエゾンは突然音信不通になってしまいました。私の場合も例外ではなく、リエゾンがストーカー化して、物凄い量のメールを1日に何件も送られました。「自分の家に来い。」「美味しいアイスクリーム屋さんがあるから一緒に2人で行こう。」などと頻頻に誘われます。私も流石におかしいし、怖くなって、実の母に相談して一緒に会うのは避けています。

また、ホストチェンジを留学中希望する人は物凄い多いです。

しかし、アメリカ国内また他の国でのホストファミリーは不足していて、ホストチェンジ待ちの学生が沢山います。まさに、保育園入学を待っている待機児童のように。

何度も言ってもホストファミリーが見つからなかったら、AFSは早期帰国を迫ってきます。

友人が実際言われたことは「これ以上、ホストチェンジしたいって騒いだら、強制的に帰国させるぞ。」と、AFSに脅されたそうです。

同じ地域に留学している、ノルウェーからの友人は「もうホストチェンジをお願いしないという契約書」にサインさせられた、と言っていました。

高校生、しかも留学生に対してやる事が、非道すぎます。

留学生の大半が1番輝くはずの高校2年生です。留年してまで来ている子も沢山います。

それなのに、貴重な10代をこんな体験で無駄にしている仲間がいることが辛いです。

友人の中には、帰国したらもう一度戻って復讐をするつもりだ。と言っていました。

私は、留学をして後悔はしていませんが、もう少し楽しい留学だったら良かったなと残念に思っています。

留学最後になっても、留学したことを後悔している人はいます。

私も正直なところ、AFSの化けの皮を剥いで、少しでも後輩達が悲しむことのないようにしてあげたいです。

留学は本当に甘くないです。

留学エージェントの言う甘い話は信じない方が身のためです。

バラ色話に騙されて流行りの短期留学する日本人の中には、頑張ってる方からすると、一緒に勉強したくない恥ずかしい学生もいます。

AFSは知名度高く、歴史のある団体ですが、決して信用性があるということでは一切ありません。

これからも真実を知らないまま、AFSでやってくる後輩達が心配です。

AFSの交換留学は生徒を公立に送りますが、本当にアメリカの公教育の低さには驚きです。

生徒は1度も授業中黙らないし、クラスはもう崩壊状態。

日本にいる頃は「交換留学」が魅力的に感じましたが、何故それが魅力的に感じられたのか今では信じられません。アメリカの公立高校にわざわざ、日本の私立上位校に居た生徒が行く、というのはホントにもったいないです。

[「アメリカ公立高校のお粗末な教育事情」](#)

1994年以来続けている「高校留学の真実」の発信。

その間にはAFSについてのトラブル相談も数多く受けました。

一番多かったのは、ホストファミリーについてです。

ボランティアホストファミリーなどとの夢の謳い文句を掲げるAFSの問題点が、大きく浮かび上がる分野です。

性的虐待、食事なし、精神的虐待、人種差別などなど、日本の子供がひどい目に会い続けている相談を受けるたびに「なぜ未だに、こんな団体から留学する日本の子供があとを絶たないのか？」と暗い気持ちになります。

法的手段を取ろうとした親も多いようですが、最初のバラ色話に浮かされ署名した契約書が障壁となり、また事が起こった場所が外国であること、そして、未成年の申し立ては信用されない、などの馬鹿げた理由で諦める事例も聞きました。

AFSの闇の歴史についてはリサーチをなさっている方もいらっしゃいますので、[「高校留学の凄まじい現実」一体験者の声特集](#)の冒頭の記事をお読み下さい。

このコラムを読んでいる方で、もしAFS交換留学を視野に入れていらっしゃる方がいらっしゃいましたら、ぜひこの内容を真正面から質問してみてください。

[悲惨なAFS経験をブログ](#)にした勇気ある高校生もいますので、それもぜひじっくり読み、あなたの、あなたの子供の人生を壊さないよう、切に祈るばかりです。（すでに留学を終えている方のブログです。留学中にはAFSからの仕返しが怖くて書けなかったことも、真正面から指摘しているブログです。）

勇気ある声が、出来るだけ多くの日本の方に届きますように。

〈費用が妙に安いカナダ・ノバスコシア高校留学はお勧め出来ますか？〉

Mar.27, 2018

「留学」特に「高校留学」を費用面から決めると大きな落とし穴に入る可能性が高いです。

「安い授業料」にはそれなりと裏のカラクリが存在しますから気をつけて。

(質問)

留学費用がかなり安いと噂のカナダのノバスコシア留学はお勧めしますか？

高校留学です。

(回答)

お答えは：ノバスコシア圏内の大学は、費用の面、レベルの面からも考慮の意義は十分あると思います。

しかし、高校留学はお勧め出来る地域ではありません。

広大なカナダの東側、特にノバスコシア周辺は経済・雇用面で他の地域に大きく遅れを取っています。

失業率ではカナダ全土5%強のところ、ノバスコシアは8%です。

大規模な雇用も起こりにくく、若者の流出も止まりません。

ま、言わば寂びれた地域です。

その寂れようを将来に向けて解決したいとEduNovaという組織が出来、大学年代の移民と学生ビザでカナダに来る留学生獲得に乗り出しました。

幸いなことに、カナダの大学のレベルは全国ほぼ同じ。

大規模な研究で世界的な有名な大学、例えばToronto University, University of British Columbia、や特定の専門分野を誇る小規模大学もありますが、どこを卒業してもカナダの大学学位は世界でよく認識されています。

ただ、学生数が政府からの補助金にも影響する所から、EduNoveがやっきとなり学生獲得キャンペーンを組んだと思います。

学費と生活費の安さ、また永住移民出願へのサポートなど、ある程度の大学生を獲得することに成功しているようです。

その地域の大学を卒業した留学生は、その地域に魅力的な働き場所があれば、そこに留まり、社会に貢献し、税金を払う重要な住人となってくれますので、それもEduNovaは大いに期待していると思います。

残念ながら現在の所、地域での就業率は低いままです。

大学の学位を持った若者が働く場所が少ないのが、未だに大きな問題となっているノバスコシアです。

それでも、実際に、地域の小規模大学を卒業し、起業家として踏み出した中国人留学生がカナダのメディアで紹介されていました。

起業家を育てるだけの規模にない地域が、その意欲にどう応えるかは興味のあるところです。

大学進学をノバスコシアで計画中でしたら、十分調査し、果たして日本からはるか離れたカナダの東海岸が自分に適しているかどうかを、確かめてみる価値はあると思います。

ところが、高校留学プログラムとなると、話は全く別です。 お勧め出来ません。

大学留学生獲得にある程度の成果が出たのを横目に、経済停滞で不足する教育予算を獲得しよう！とばかりに「高校生留学生獲得」に乗り出したのが、NovaScotia International Program です。

授業料などの費用の安さを全面に押し出し、州の教育省が「留学生授業料ビジネス」に参入しました。

日本にも一生懸命のセールスを行っており、いわゆる「留学エージェント」を取り込むビジネスプランを遂行中のようです。

安い授業料などで、BC州、オンタリオ州などと比べると、授業料の15~20%をリベートとしてエージェントに払う総額は低いと思われそうですが、何か裏でエージェントに有利な取引が行われていると思います。

そうでないとエージェントはリベートの高いほかの地域を勧めますからね。

留学生プログラムのwebsiteを訪ねてみると、他の地域の留学プログラムに比べて明確に異なる部分があります。

BC州のビクトリア留学生プログラム

30年近くに渡り日本から多くの高校留学生を無節操に受け入れている地域ということでは、お勧め出来る所ではありませんが、それでもwebsiteにはApplication【出願】についてのプロセスが紹介されています。

エージェントを通さず、自分で能力を持ち手続きをする高校生の留学が本来のプロセスだということです。

ノバスコシア

出願についての情報がありません。 留学生プログラムで出願について詳細のないwebsiteは、私の知る限り初めてです。

つまり、エージェントに生徒獲得を頼る引き換えに、エージェントの儲けを確保するために留学生が自分で手続きすることを奨励していない態度がよく現れています。

エージェントを通さずに自分で手続すると罰金があるとの相談を受けたことがあります。

学校、ホストファミリーに関しても留学生には選択の権利も、不満を言う権利もないようです。

すべてNova Scotia International Student Program の命令に従うこと。
これが安い費用の理由です。

また、受け入れ学生の質には、エージェントの顔を立てる意味で、完全に目をつぶっている様子です。

入学した生徒の日本の教育制度化での成績は、情けないほど低い高校生がずいぶんたくさんエージェントの手で送られています。

こうまでして多くの授業料を獲得したいノバスコシア留学生プログラムのwebsiteには、もうひとつのカラクリがあります。



卒業資格をまずこう記述しています。

“In order for a NSISP student to graduate from a NS high school, they need to study in a Nova Scotian school for at least one year and meet all graduation requirements.”

「ノバスコシアの高校を卒業するには、少なくとも1年は高校に在籍すること。そして高校卒業資格を満たすこと。」

と書かれています。 その下に、長々と卒業に必要な単位の詳細がありますが、まずエージェント任せの高校生と親たちは、それに目をやることはないでしょう。

また、日本での能力も平均以下の高校生には余程頑張って5年、ほとんどの高校生は途中脱落する単位数ですが、エージェントは口が裂けてもそんなことは言いません。

「1年在籍したら卒業資格が出来ますよ」に釣られた高校生も多いのではないかと危惧しています。

というのが、高校プログラムの実態です。

〈「高校2年でカナダ留学し、そこから2年でカナダの高校卒業出来ますか？」 「出来ません」〉 Apr.6, 2018

春真っ盛りの日本から、心を痛める相談が相次いでいます。

日本の教育制度下でも頑張っている高校生と親からの相談です。

高校2年生の9月からカナダの高校に留学、そして2年で卒業し、そのままカナダで大学進学または帰国生入試。

正に漫画のような「**バラ色の誘惑**」です。

その相談内容を読むたびに、また犠牲者が。。。と心が痛い思いです。

大多数の留学希望者の常として、まずはエージェントに問い合わせ。

エージェントは「やった！またカモが来た！」と大嘘の「夢物語」でセールスします。

高校生本人は、いたって真面目に自分の将来を考え、親も何とか子供の希望を叶えてやりたいと「夢物語」に簡単に引っかかります。

どのコラムにも「高校卒業留学」については、相当厳しい現実を報告していますが、本当の事より、「簡単ですよ～。2年で卒業可能です。」というトランプレベルの大嘘を信じたいくなるのでしょうか。

カナダで生まれ、英語で育ち、クリティカル・シンキング社会で育ち、小学校・中学校とクリティカル・シンキング特訓を受け、高校に上がってきたカナダの生徒たちが学ぶ所がカナダの高校です。

そこに、英語も満足に出来ず、クリティカル・シンキングの「ク」の字もわからず、エッセイの書き方すら知らない日本の高校生が来て、同じ教室で同じレベルの勉強が出来ると言う事自体、非常に馬鹿げたことだと思いませんか。

「留学！」の夢を見ている親子にはそんな当たり前のことも無視するほど、「大丈夫ですよ」の大嘘を信じたいのでしょうか。

また、今年も日本の真面目な高校生達が、「嘘つきエージェント」の餌食となっていきます
一生懸命働いた親のお金を「嘘つき留学」につぎ込ませ、後は知らぬ存ぜぬ。

そんな詐欺まがいの現状に警鐘を鳴らす意味を込め、一人でも騙される高校生が減るよう祈りつつ「なぜ、高校卒業留学は不可能に近いのか」を述べて行きます。

ある親からの相談

「これからの2年間で高校卒業及び大学進学をカナダで実現させるには何が必要で、どのようにすべきか具体的な方法を教えていただけると嬉しいです。」

(回答)

1. 日本の高校生が2年間でカナダの高校を卒業すること自体はまず不可能です。

しかも大学進学に必須の、高いレベルの単位やGPAを取ることはもっと不可能です。

(多くのコラムに、卒業に必要な単位などの詳細などについても説明していますのでぜひお読み下さい。)

エージェントは「日本の高校の単位を移行出来るので、2年間で卒業は簡単ですよ」と大嘘をつきますが、肝心の情報は隠していますので要注意です。(全て移行出来るわけではないのもその一つです)

ただし、非常に少数ですが、下記の場合は可能性はゼロではありません。

- ・日本の教育制度で理数系が優秀であること。(卒業に必要なmathの単位は簡単に取れると思います。科学系の単位はかなり英語が必要ですが、基本を理解しているとスムーズに進めます。)
- ・英語の基本文法運用能力があること。(中学までの文法は完全理解が必須です。しかも、自分のideaを論理的に書ける文法能力が必須です。)
- ・クリティカル・シンキング思考法の訓練を受けていること。(カナダの高校はクリティカル・シンキングのレベルが非常に高いです。この訓練なしでは、正式なEnglishのクラスには入れません。)
- ・英語のエッセイの書き方、方式を知っていること。(かなり論理的な内容も必要です)
- ・英語の本をたくさん読んでいること。(カナダの中学・小学校では実にたくさんの本を読み、それをクリティカル・シンキングで分析します。その後もっと高いレベルの高校に上がるシステムです。本を読めない留学生は授業についていけません。)



2. 日本からの留学生が、カナダで高校卒業し、大学進学（カナダでも日本でも）に必要なレベルの単位を取るためには、非常に大きな問題が存在します。

English のコースです。

何年時に留学を開始したとしても、**English 10, 11, 12**は卒業には必修です。

クリティカル・シンキング能力、エッセイ能力、正確な文法運用能力がないと、English 10に入るのも不可能です。

それまでは、ESL（外国人のための英語コース）に留め置かれ、普通English10に上がるまでに1～2年かかります。

日本の高校の単位が少々移行出来たとしても、ここが問題で、卒業までに4～5年かかるのがほとんどのケースです。

日本の高校2年時に留学しても、そこから4～5年です。

過去に相談を受けた多くのケースも、1年経ってもまだEnglish10に上がれない！という「こんなはずではなかった」というのがほとんどです。

上記説明した能力なしでは、何歳になったとしてもEnglish10には入れないのが厳しい現実です。

その後続くEnglish11, 12はもっと難関です。

私が送った高校生たち、日本でかなり準備をした日本のトップクラスの高校生達でも、パスするにはかなりの時間をかけたアカデミックサポートが必要でした。

また、English12の最終試験は州が行いますので、それに合格してC-でも合格出来ると「万岁！」レベルという難しさです。

もうひとつ気をつけたいのは、各高校が提供するEnglishクラスのレベルです。

大学に行く生徒用の高いレベルと、大学進学しない生徒用の低いレベル（それでも日本人には非常に難しいですが）ふたつがあります。

留学生は一般的に非常に英語能力が低いので、大学進学用のEnglishをとらせてもらえるかどうかは、完全にカナダの学校側の判断となります。

低いレベルのEnglish12の単位では、カナダやアメリカの大学進学は出来ません。高いレベルのEnglish12を取り直す必要がありますが、また年数がかかります。

帰国生入試を行う日本の大学も、English12以外は受け付けていない所がほとんどです（いい大学は全部そうです）。

〈【カナダに高校留学・卒業希望?】このENGLISH12最終試験に合格すれば可能です〉

カナダの高等教育レベルの現実を日本に発信し続けていますが、未だにとんでもない間違っただけの思い込みが蔓延する状況を危惧しています。

帰国生入試も含め、大学進学を目指すための高校留学で、日本人が陥るのが**ENGLISH** 授業の難しさです。

卒業には**English 10, 11, 12**のすべてが必修で、最終試験は各州が行います。

English10でもレベルはとて日本からカナダに到着後の生徒が対応出来るものではありません。

日本での英語がトップクラスだった生徒でも無理です。

クリティカル・シンキング思考法に長け、客観的・論理的・科学的・批判的な考えを、レベルの高い語彙・文法を正確に使い、しかも英語の真髄である具体的な表現で表す能力が問われます。

Reading の量も非常に多く、1週間で一冊の本が終了することも普通です。

シェイクスピアなどの古典もカリキュラムにありますので、古い英語を理解することも必要になります。

Responseと呼ばれる読後のIdeaをエッセイにすることも、授業では非常に頻繁に行われます。

"Recall a time when you had a favourable opinion of someone, only to learn that that person had betrayed your trust.

In retrospect, were there any clues that might have alerted you to this person's "darker side"?"

これはEnglish10のレベルです。

書く速さとしては、5分かけると他の生徒からは遅れてしまいます。

English10, 11, と合格すれば、English12が履修可能となります。

相当の難易度です。

しかも、学校の授業成績だけでなく、州が最終試験を行いますので、留学生も容赦ない点数が付き、その成績で大学進学が決まる国です。

膨大なReading 量とエッセイ量が出題されますが、その一部を添付しておきます。

ASSIGNMENT I: PERSONAL RESPONSE TO TEXTS

Suggested time: approximately 45 to 60 minutes

Carefully read and consider the texts on pages 1 to 4, and then complete the assignment that follows.

from *THE ROAD PAST ALTAMONT*

I had gone out that evening, I remember, to breathe the scented air for a few minutes. Two paces from the house, a sort of impenetrable night began, just as in the times so often described to us by Maman. I went down to the end of the farm road, to the edge of the immense plain, so sabbat at that hour and rustling like a great cloak spread out in the wind. How easy it was, with the darkness blotting out all traces of habitation, to imagine these places in the primitive reverie that had so excited my grandfather but always revolted my grandmother. On those nights of mile and vaguely plaintive wind, I was always aware of those two profoundly divided spirits. And my own adventurous heart perhaps divided them even further by inclining me so strongly toward the one who had so loved adventure. . . .

In the big living room, where a few of our people were lingering, I found my mother and Uncle Cyprien, sitting a little to one side and engaged at this very moment in talking to mind the character of my grandmother.

"Do you remember the sudden anger she turned on us, Eveline?" said my uncle. "That first night on the wagon trail when we couldn't find a house to stop in and had to camp out under the stars? Was it because the fire wouldn't catch? Or is it fear of the naked prairie all around? She stood up, calling us gypsies, and said threateningly, 'All right, I've had enough of following you, you band of stragglers. You go your way there. I'll go mine.'"

Maman smiled rather sadly.

"Those are the sorts of threats one makes when one is at the end of one's tether. Before she left her village, she probably didn't realize how different everything would be. The night you speak of may have been when she finally saw all the implications."

"But to call us stragglers!"

"Weren't we, in a sense," said Maman, "when we all turned against her to extract her consent by force?"

"We had to," my uncle insisted. "We had to leave. Back in the hills, you remember, Eveline, it was nothing but rocks, thin soil. . . ."

"No doubt," said Maman. "But she was attached to it, and you must know now yourself that one doesn't only become attached to what is soft and easy."

Hidden in a corner of the room, a very young man was softly playing a harmonica. The slightly languid air formed a *flamme* accompanying to their speech and perhaps urged them a little toward nostalgia.

"What could we have done but what we did?" my uncle continued. "The west was calling us. It was the future there. Besides, it proved to be right."

"It was the future," said Maman. "Now it's our past. At least let's try, in the light of what we've learned by living, to understand what it was like for her to have to leave her past when she was no longer young. Would you, Cyprien, willingly leave this farm you've inherited?"

"That's not the same thing," said my uncle defensively. "I've worked so hard here." Maman appeared to be listening to someone invisible, a soul that had vanished perhaps but had not yet stopped trying to make itself heard. She raised her eyes to her brother and gave him a smile of indulgent advice.

"Cyprien, haven't you ever understood how hard she had to work on that wretched farm in order to make a life for us that was pleasant on the whole?"

"That's true," said my uncle, somewhat ashamed. "But I was so young when we left the hills. I scarcely remember them. What about you? Do you remember?"

Maman stared dreamily at her clasped hands.

"I remember them, yes, quite well."

But what was she recalling exactly? The bygone hills she had not seen since childhood? Or the quite unexpected ones in Manitoba, which we had one day discovered, which had restored so much else to her memory and which must have been the source of the change I had observed in her, for, come to think of it, it was only since the reappearance of hills in our life that I had noticed that attention to voices from the past that I found so bewildering and that took her to some extent away from me.

Suddenly I had had enough of all this entanglement. After all, since hills were in some way involved in all this, we might as well speak of them openly, settle the matter once for all. It occurred to me that she had not spoken of them to me even once in this whole year, although the thought of them incessantly. I was convinced.

I broached the subject.

"Uncle Cyprien?" I said. "do you know the village of Altamont? I see a village, actually—just a few houses. . . ."

"Altamont!" my uncle repeated, tranquilly smoking his pipe. "Queer little spot, isn't it? It's been half dead for a long time. I've never liked that region. It's too cramped and narrow. I've never been able to understand why, with the choice of homesteads on the level easy prairie, anyone would look at that clump of hills. Yet it happened some fifty years ago. At least the region attracted some Scottish immigrants who, I imagine, found there a smaller edition of the country they had left. But what folly! The Highlanders didn't make a go of it and scattered after a short while, some returning home, others going to the towns. An experiment that turned into a disaster, that's Altamont."

"Nevertheless," I said, hearing myself speak on Maman's behalf, "there are some extraordinary views to be seen when you cross the entire little range."

"Do you say there's a road right across the range? If so, it must be in a bad state of repair, for almost no one, to my knowledge, ever goes there now."

I noticed then that Maman was watching me nervously, as if she feared I might let my uncle too far into our secrets, and with her eyes she cautioned me against it. Good and affable as he was, my uncle was not much given to flights of the imagination and knew how to squelch them sometimes with a single, too-careful word. It was curious: the true son, at heart, of my grandmother, the one most exactly like her, with his realistic spirit and his attachment to what he possessed, he was because of his lack of imagination the one least capable of understanding her.

Gabrielle Roy

4

Roy, Gabrielle. *The Road Past Altamont*. Translated by Joyce Marshall. Toronto: New Canadian Library, 2010. Reproduced with permission from Poché Gabrielle-Roy.

5

ASSIGNMENT I: PERSONAL RESPONSE TO TEXTS

Suggested time: approximately 45 to 60 minutes

You have been provided with three texts on pages 1 to 4. In the excerpt from Gabrielle Roy's *The Road Past Altamont*, the narrator's mother and uncle share contrasting perspectives about their past. In Jayanta Mahapatra's poem "About My Father's Plot to Get Home," the speaker considers the desire to return home. The photograph by Marco Antonio Cruz is part of a long-term project.

The Assignment

What do these texts suggest to you about the ways in which individuals deal with the prospect of an uncertain future? Support your idea(s) with reference to one or more of the prompting texts presented and to your previous knowledge and/or experience.

In your writing, you must

- use a prose form
- connect one or more of the prompting texts provided in this examination to the topic and to your own ideas and impressions

Fold and tear along perforation.

Tear-Out
Page

「カナダの高校を卒業したいです！」という甘い夢をみている方は、ぜひやってみてください。

このレベルに何年で到達すると思いますか？

あるいは、到達可能だと思いますか？

4～5年はかかりますが、これに合格出来る日本人高校生は5割にも満たないと思います。

じゃ、今度は、カナダのレベルと、日本の大学入試の英語エッセイ試験を比べてみましょう。

"In recent years the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology (MEXT) has been encouraging public elementary schools to provide English conversation lessons during the periods devoted to General Studies. This has led to widespread discussion concerning whether English should be made a compulsory subject at the elementary level." (早稲田国際教養)

「小学校での英語教育」についての説明です。

まだQuestion は出てきません。 えらく前置きが長い、正に日本的な文章です。

やっとQuestion 登場ですが、なんと3つも答えを用意してくれています。

"Do you think that English should be made a compulsory subject from the first grade of elementary school in Japan?"

"Or, do you think that English should not be taught in elementary school at all?"

"Or, is your opinion somewhere between these two extremes? Write a paragraph defending ONE of these three positions, giving at least one appropriate reason to support your opinion."

(解答欄は144mm×8行)

Question は最初のだけで十分。

他のは、クリティカル・シンキングを使って答えていく過程で出てくる内容です。

まるで幼稚園児に書き方を教えているレベルに思えます。

しかも、短い！ 英語80語程度ですね。

カナダのEnglish10のShort Responseでもこんな短さのは珍しいです。

つまり、早稲田の国際教養に合格した日本人大学生でも、カナダのEnglish10にはパス出来ないということです。

下記のような低レベルエッセイ問題が多くを占める日本の大学入試。

“Smoking should be made illegal in Japan.”

これについて、賛成か反対かを述べ、理由を2つ以上書く問題です。

語数はやはり80語～100語のみ。

これら2つの日本の大学入試英語エッセイ問題は、カナダでは中学7～8年生レベルです。

【結論】

日本の一流大学に合格する日本人でも、仮にカナダの高校に来た場合、English10すら合格できないことがおわかりですか。

英語を母国語とし、クリティカル・シンキング能力がないと大学進学への資格がもらえない国カナダで勉強するとは、こういうことです。

「カナダにの高校に留学し、卒業し、大学進学します！」とエージェントの嘘を鵜呑みにして希望いっぱいの高校生のみなさん。

これが現実です。

【忠告】

- ・カナダ高校留学は非現実ですので、まずは日本の高校を卒業すること。
- ・日本での成績がトップクラスで、自己動機が強く、4～5年かかってもカナダの高校卒業を目指したい場合は、必ず日本で十分「英語」「クリティカル・シンキング」の準備をしること

(最低1年の準備期間は必須)

- ・留学後も最初の1～2年はEnglish10（すぐには入れませんよ）の準備としての個人的学習サポートが絶対必要

【追記】

添付しているカナダのEnglish12の最終試験に挑戦したい方はやってみてください。

どの程度の点数がもらえそうか、添削しますのでこちらまで。

〈「高校留学の実態」を聞いても、それでも「留学」したい高校生への忠告〉

Apr.17, 2018

「高校留学」について、カナダ現地から「夢物語」ではない「現実」を発信し続けています。コラムやブログを読まれ、ご相談を寄せて下さる方が多くなって来ました。

『エージェントのいうままに「留学申し込み」をしたけど、不信感が募り、どうしていいかわからなくなった』という方からのご相談もあります。

そんな時、親子で真剣に分析してほしいのが下記の現実です。

1. 人生の一番楽しいとも思える10代の後半の、1~2年を失ってまで、留学を決行しますか？

日本にいれば高校は、余程のことがない限り、3年でみんな卒業出来ます。

カナダに来れば、余程優秀な留学生でない限り、卒業に最低4年、普通は5年以上かかります。

(それまでにあきらめて帰国する日本人高校生の数も多いです。)

日本の高校の何年時から留学しようと、条件は同じです。

エージェントの言う「日本の高校の単位を移せますよ」にだまされないように。

すべて移せるわけではありませんし、一番難関のEnglishコースは、10年生レベルからが卒業への必修です。

「日本の高校1年生を終わっています！」といくら主張しても無駄です。

カナダの教育制度の中に入ってくるのですから。

English10,11,12と好成績でパスすれば、大学進学への切符が手に入ります。

帰国生入試を狙っている場合も同じです。

そこにたどり着ける日本人留学生の数は多くはありません。

カナダの高校生でさえも、優秀でないと単位が取れないEnglishのコースです。

また、留学生が最初のEnglish10に入るのを許可されるまでには1年～2年かかります。それまではESLという留学生用の英語コースに留め置かれ、学校の許可が出るまではずっとそのクラスで過ごします。

そうやっている間に、日本の同級生たちは高校を卒業し、新しい道を進み始めます。あなたはまだカナダで将来への見通しも立たない状態です。

それでも強引に「留学」しますか？

2. 仮に5年かけて卒業出来たとしても、その卒業証書には大学進学資格がない場合が多いです。

それでも留学しますか？

カナダの高校は大きく分けて2つのレベルに分かれます。

9年生までの成績が優秀なカナダの生徒は、10年生になると「大学進学用」主要科目の高いレベルに進みます。

学習能力の芳しくないカナダの高校生は、卒業への単位取得だけのために、低いレベルのコースを履修します。

高い方を希望しても、ついていけないからです。

最も重要なのがEnglishのレベルです。

州により多少呼び方が異なりますが、BC州の場合 English12の単位がないと大学進学は出来ません。

そのレベルの取れないカナダの高校生は Communication12という単位を取り、高校卒業証書をもらいます。

Communication12では、日本の大学帰国生入試も難しくなります。

アルバータ州では、主要科目は-1（ダッシュワン）と-2（ダッシュツー）とに分かれており、English 10-1, 20-1, 30-1と単位を取った生徒のみ大学に上がれます。

English 10-2, 20-2, 30-2と進むのさえ、日本人留学生には極めて難しく、落としてとりなおしも覚悟の必要がありますが、それでは大学進学も帰国生入試も資格がありません。

必死で5年後に卒業出来、日本に戻った時、同級生たちは大学3年生。
社会に出る準備目前です。
あなたは、まだ大学進学資格さえありません。

それでも「留学」したいですか？

3. 「やさしい白人ホストの家庭で大事にされ、カナダの友達もいっぱい出来、楽しい高校生活」は、あなたからお金を稼ぎたいエージェントやスクールボードが描く狡猾な「夢物語」です。

「留学」の夢が壊れるのを見るために「留学」しますか？

今時、どんなカナダ人も「あ～日本人が来た！ぜひホストを！ぜひ友達に！」などと思う人はいません。

もともと世界中の移民で成り立つ国です。

日本人の顔をしたカナダ人もたくさんいます。

日本文化を知っているカナダ人も多いです。

学校では、特に高校生年代のカナダ人生徒は、社会に出ての体験（ボランティア、アルバイト）などで大忙し。

また、その年齢になるまでには仲良しグループが出来上がっています。

しかもカナダの高校生たちは、精神的にかなり大人です。

日本から来て、カナダの高校生よりもかなり幼く、英語での話も満足に出来ない留学生などに興味はありません。

生活が安定し、大きい家に住む、いわゆるカナダの白人たちも「ホストファミリー」などに興味はありません。

20年以上も前から、「良いホストファミリー」の慢性的不足が問題になり、現在は危機的状況です。

ホストになるのは、お金に困っている人、カナダに来て間もない移民家庭など、生活費目当ての人たちがほとんどです。

もちろん、その中でもいい人たちに巡り合うことはありますが、宝くじにでも当たるくらい確率が低いのが現実です。



ホームステイで問題が起これば悪者になるのは留学生です。
スクールボードも、学校も、いわゆる地区の担当者も、エージェントもみなホスト側です。
自分を主張する英語力も精神力もない留学生には、何の権利もないのが「留学の現実」です。

そんな環境で5年も我慢し、自己の尊厳まで否定され、ひとりぼっちの10代後半を過ごすために「留学」しますか？

**4. カナダの高校に数年通ったからと言って、将来の能力として誇れる英語力は付きません。
じゃあ、留学のいいところは何もない！ そうです。 それでも「留学」しますか？**

就職時の大きなスキルとして胸をはれる英語運用能力には、大学レベルの教育を受け、社会での体験も含め7～8年必要です。

日本の優秀な高校生たちには、こう勧めています。

日本でトップクラスの高校生で、英語の基本には申し分なく、クリティカル・シンキング理解もあり、将来はカナダ・アメリカの大学進学を目的とする場合、ふたつの選択肢があると。

ひとつは、日本の高校で特に理数系の基本を身につけ（日本の理数系のレベルの方がカナダより高いですよ）、在学中にクリティカル・シンキング思考能力を磨き、高校卒業してからカナダに来ること。

ふたつめは、意中の大学や進路が決まっている場合、その進路に最適な高校に留学する。

もちろん、いかに優秀な高校生でも4年は覚悟の留学ですが、その先の大学準備も兼ねての4年間であれば、時間の無駄にはならないかも知れません。

（お勧めはひとつめですけどね）

エージェントとカナダのスクールボードは、日本の高校生をどう育てるかなどには興味はありませんよ。

あなたの親が払う大金に興味があるだけです。

それでも、どうしても「留学」しますか？

カナダ現地からの忠告です。

〈騙された日本人で溢れかえるカナダの高校留学事情〉

Apr.26, 2018

カナダの高校留学事情、実際にその渦中に放り込まれた高校生からの深刻な相談です。

「2年で卒業できるよ」と嘘を言われ、「日本人は少ないよ」とだまされ、送り込まれた先は、日本人留学生が多すぎて団子みたいに固まるカナダの高校。

卒業に必要なEnglish 10, 11, 12など到底届かない能力で、1年経ってもESLのまま。

現地カナダからの相談です。

【質問】

現在カナダの高校に在籍しているものです。日本の高校に1年通った後留学し、当初の予定では現在所属している高校に二年間通う予定でしたが、現在カナダの違う地域の高校に転校しようかと悩んでいます。

現在通っている高校は日本人が多く、固まりがちになってしまうこと、来年の九月にさらに日本人留学生が増えるとのこと、現在の学校のオフィスの対応に満足していなく、少し治安が悪いところが挙げられます。

転校先の高校の話聞いたところ、かなり親身に色んな対応してくれるとのことでした。

卒業後日本の大学へ進学予定なのですが、今回の転校が受験の時に大きな影響を及ぼすのでしょうか。

留学経験者で留学中に転向をされた方、又は何か詳しく分かる方、回答のほどよろしくお願ひします。

【回答】

カナダの高校留学事情を、内部からよく暴露していただいたご相談ですね。

そうです。

エージェントがどんどん質を無視して送り出す日本人高校生が、カナダに溢れています。

「留学生の数 x リベート = エージェントの儲け」ですから、ビジネスに勤しんでいるわけですね。

また、受け入れ側のスクールボードは、あなた達留学生の払う授業料にウハウハよだれをたらしています。

日本人が何人来ようが、学校で固まっていようが、ESLのままどこにも進めず、卒業など夢のまた夢であろうが、関心はありません。

カナダ在住、30年近くに渡り、日本からやって来る優秀な留学生の支援をしている立場からアドバイスさせていただきます。



1. カナダ国内でどこに転校しようが、日本の大学の帰国生入試には影響はないと思います（個々の大学の出願基準をよく調べることが必要ですけどね）。

それよりも、もっと深刻な問題は、果たして「好成績」でEnglish 12をパスし、卒業資格(diploma)が取れるかということです。

準備もなく、能力もなく、日本から来た高校生には、カナダの高校を卒業することはほぼ不可能です。

4～5年かけると、もしかして何%は卒業にこぎ着けるかもしれませんが、上記English 12を3年以内に好成績で合格することはほとんどありません。

(English12がないと、帰国生入試も難しいですよ)

「現在の高校に2年通う予定でしたが。。。」というコメントから、おそらく留学前にエージェントの甘い話に騙されてしまったのかなと思います。

「日本の単位を移せますよ！」を信用してしまいましたか？

全部移せるわけではないし（言語も、レベルも違う国ですからね）、一番ネックのEnglish 10, 11, 12がいかに難関かなどは、誰も説明してくれなかったのかなと思います。

しかも、高校何年生から留学しても、Englishは10年生レベルからをとらないといけないことは知っていましたか？

転校について。

もし、あなたが優秀な留学生で、現在すでにEnglish10を履修中。

しかも、成績は80%を超えている場合は、恐らくあと2年でEnglish 11, 12を死に物狂いで頑張れば卒業が見えてくると思います。

その場合は、現在の日本人で溢れかえっている高校では、低能力の他の日本人高校生と同じ目で見られ、今後のプロセスがスムーズに行かない可能性が高いです。

自分のペースで勉強出来、現地カナダの優秀な高校生たちと交わる機会の多い高校に転校することはプラスだと思います。

ただし、同じスクールボード管轄内では、どこに転校しても、受け入れ側の方針は同じですので、転校の意味はありません。

全く別の地区に転校するか、別の州に転校するかを選択肢を選ぶことをお勧めします。

もし、あなたがまだESLに留め置かれ（ほとんどの日本人高校生が入れられるクラスです）、来学期もEnglish10の可能性が見えていない場合は、どこに転校しても同じです。

まずは、英語の能力を底上げし、クリティカル・シンキング理解の訓練を受け、一学期でも早くEnglish10に入れる努力をする方が先です。

卒業は、English10を取り始めてから3年かかると思って下さい。

〈「回答」への返事をいただきました。未だにESLだそうです。〉

2. カナダの高校のオフィスがどれだけ面倒見がいいかは、あくまで雇われている個人次第です。

現在の高校のオフィスの人は、英語の出来ない多すぎる日本人に辟易しているのかも知れないし、またはただ個人的に良い人ではないのかも知れません。

転校先のオフィスの対応は、必ず自分でコンタクトを取り、どのくらい親切に対応してくれるのか、どんな人がいるのかを、自分で調べること。

人からの話は信用しないこと、です。

そうでないと、後悔しても後の祭りになります。

3. 治安の悪いところにも、平気で未成年の留学生を送りつけるのがエージェントです。

日本人が多すぎて、治安が悪い場所。

BC州のサレーかな？

よくまあ、こんな所に、何も現実を知らせずに日本の高校生を送るなど呆れる場所です。

BC州は、日本からの留学生が一番多い場所です。

移民も非常に多く、余程の田舎にでも行かない限り、白人が大多数を占める高校を探すのが難しいくらいです。

カナダ社会の常識も知らず、英語でも満足なコミュニケーションが取れない日本人高校生にとっては、危険な環境もたくさん存在します。

(エージェントは口が裂けてもそんなこと言いません)

バンクーバー地区、バーナビー、ノースバンクーバー、ウェストバンクーバー、コキットラム、ラングレー、アボッツフォード、メープルリッジ、リッチモンド、ビクトリアなども、日本人留学生だらけです。

しかも、治安面では、精神的に幼い日本人には好環境とは言えないですね。

転校する場合は、これも自分で歩いて回って、環境をよく確認してからにすることが大切です。

また最近化けの皮が剥がれ始めているノバスコシア州の留学生プログラムもお勧め出来ませんので、気をつけて下さい。

同じような状況で「こんなはずではなかった。。」迷子の日本人高校生が、カナダには非常にたくさんいます。

〈留学希望のみなさんへーこれがホームステイの現実です〉

May 8, 2018

わぁ～いホームステイだ！とやって来たものの、描いていたバラ色の夢物語とは大違い。ホームステイとは一体何なのかの現状は、必ず留学前に知っておくこと。自分がそれに耐えられるかも、留学成功への大きな課題です。

【質問】

今留学中で、ホストファミリーを変えようか迷っています。あと1年半か2年はこのお家にいなければいけないのですが、ハウスルールとか食事があまり理解できない部分があります。とてもいい人達なのですが、結構細かくて顔を合わせる度に何か注意される気もするので、最近家はいるのが少し辛いです...

ここであと1年半気楽に過ごすことは難しいかなと思ってしまいます。エージェントの方にも相談したのですが、とてもいい人なのでちょっと考えたらと言われました。(遠回しに変えないほうがいいって言われたかも?)ただ私が贅沢なだけなのでしょう。ホストファミリーが良い方達だけに難しいです...でも私とは合わない気がするんです。

私のいない時に部屋を見られてると思います。あと、洗濯は2週間に1回(ホストファミリーは週1でしています)、ランチも持たせてくれるのですが、最近だんだん少なくなって来ました...あと、掃除に関してはとても厳しいです。週1でチェックがあるのですが、ウォッシュルームに髪の毛が1本落ちているだけで、あなたは掃除をしていない(私は掃いたのですが、うっかり落ちていました。)普段の食事も、最近は忙しいのか、冷凍食品?と思われるものがたくさん出てきます。友達のホストファミリーはそんなことはないようです。



【回答】

ホストファミリーについての悩み、多いですね。

まず。

ホームステイでの問題は、双方の言い分を聞くたびに「この2者は本当に同じ家に住んでいるのかな？」と思えるほど、食い違っているのが常です。

完全に異なる文化・言語、しかも日本人留学生の英語力は情けないほどお粗末。カナダの文化もマナーも無視する留学生、日本の文化・マナーを無視するホストファミリー。

恐ろしく難しい問題が潜んでいるのが、ホームステイの現状です。

1. 「ホストファミリーは良い人」

あなたやエージェントの言う「良い人」の定義とは何ですか？

異文化から来ている留学生のバックグラウンドを理解し、カナダの文化と日本の文化両方を尊重しながら、一緒に過ごす体験をより意義のあるものにしてくれる人が、良いホストファミリーだと、私は定義しています。

「良い人」なのに細かい。

「良い人」なのに食事が手抜き。

「良い人」なので変わらない方がいい。

などの理由付けがわかりません。

2. ホストファミリーはあなたの事を「良い留学生」だと思っていますか？

他人の家に住まわせてもらうのですから、そのルールを守るのは当たり前。

子守をさせられたり、家中の掃除が義務だったり、夕食の準備はほとんど任されたりなどの常軌を逸したルールは別として。

そのファミリーの日常をよ〜く観察し、真似をし、お手伝いを買って出て、少しでもあなたの存在がファミリーにプラスであるよう振る舞っていますか？

もし、それが出来ているのであれば、ホストの小言は自分の子供にもする小言かも知れないし、食事の手抜きはずっと昔からなのかも知れないですよ。

3. 洗濯についても、カナダに住んでいる立場から、ホストのルールは理解出来ますよ。

一人分の洗濯の量はそれほど多くないはずですよ。

それを毎週洗濯機を回すと、水の使用量が上がります。（洗濯機はものすごくデカイですね。）

少しでも水道光熱費を節約したいファミリーなら当然のルールだと思います。

得てして、日本から来た若い人は、世間知らず過ぎる場合が多いです。

親の庇護の元、シャワーの水は流し放題で長時間、水回りの掃除は親の仕事、部屋の片付けも適当。

周りの人が、汚れたトイレやバスルームにどう反応するかなどの理解度が少なすぎます。

洗濯の頻度を決めるのは、理不尽ではないと思いますよ。

4. ランチを作ってくれるホストは、そんな多くないですよ。

しかも、生人参などを持たせてくれるので、留学生は最初「あ～～～」と叫んでいますが、幸運なことです。

自分でサンドイッチなどを作る留学生が多いです。

ホストが作ってくれたランチを残して返ったことはありますか？

捨てているのを見つけたことはありますか？

夕食を、理由も言わずに、ほとんど残したりしたことはありますか・

あなたの様々な行動はホストに観察されています。

量が減ってきたには何か理由があるように思えます。

心当たりがあるにしろ、ないにしろ、単刀直入にホストに頼むことです。

「ランチの量がもっと多いほうが嬉しいです。」と。

或いは、自分で作ること。

人が作ってくれるランチの量が少ないことには、あまり文句の言える立場ではないですね。

5. 髪の毛は、他の人には非常に気持ち悪いものです。

ホストの家のバスルームはいつでも、バスルーム展示場並にピカピカにしておくこと。
ホームステイの常識です。

6. 英語圏の家庭は、日本よりはるかに頻繁に冷凍食品を使います。

たくさんの種類も出回っています。

仕事をしている忙しい人には、非常に役に立つ冷凍食品がスーパーには並んでいます。
あなたも見たことがあるでしょうが、スーパーの冷凍食品ケースの大きなには驚きませんか？

どん！と場所を取り、ありとあらゆる物が並んでいます。

いわゆる「良い人たち」もどんどん冷凍食品を使いますよ。

日本のお母さんの食事と比べても、文句は言えないですね、異文化にいるのですから。

7. 友人とホストファミリー談義をするのは、余りお勧めではありません。

意図があって褒めちぎるのなら別ですが。

あなたの住んでいる地域、学校にはあらゆる所に耳があることを忘れないように。

ホストと大もめにもめ、結局悲惨な経験に終わる留学生は、ホストの事を周りの留学生に愚痴ることが大抵の発端です。

かなり厳しいことを書きましたが、これがホームステイの現実です。

わざわざ高いお金を払い、言葉も文化も考え方も全く異なる他人の家に住む選択をしたのは、あなたです。

普通のアパートとかの賃貸契約なら、借り主の権利は政府が大きく守ってくれます。

しかし、留学生はテナントとは扱われず、法律の外にありますので、残念ながらあなたには権利はありません。

結果として、次のホストでも同じか、更に悪い状況が起こる可能性は50%を超えていると思います。

一度ホストを変えた留学生には、「要注意」するのが普通です。

「またもめるかな？」「また文句言うかな？」と。

もともとホストファミリー数不足にあえぐ留学事情、そんな留学生をとびきりお勧めのホストに入れてくれる可能性は少ないと思います。

また、次のホストは必ず聞きます。「なぜこの子は前のホストを出たの？」



一番いい方法は、エージェントを交えて（もし英語が普通に出来るなら）ホストと正直な話し合いをすることですね。

そうしたら、なぜ、ホストの行動についてよりよく理解出来ると思います。

あなたのやって来た日本文化を理解し、しかも留学先の文化も理解し、日本語・英語のバイリンガルな頼りになる大人の存在が非常に必要です。

本当は留学前に知っておくべき、重要な現実ですが、知らずに来てしまった今となっては、出来ることは限られているのが残念です。

〈カナダの高校を卒業出来なかった留学生への選択肢〉

May 31, 2018

カナダに高校留学したものの、日本の同級生が大学生になるのを横目で見ながら、未だに卒業に必要な単位が取れない留学生。

こんな選択肢に頼るしかないケースが後を絶ちませんが、留学前に夢見た自分とはかなり違うのではと思います。

そんな留学生の将来に少しでも前向きになれる救済プランが必要なのが、カナダの高校留学事情です。

【質問】

G12を終えるまでに卒業に必要な単位を全て取得できなかった場合、進学希望者はカレッジで高校の単位を取りれると聞きました。それは専門学校とは違うのですよね？

【回答】

高校卒業資格に届いていない生徒も、ガウンを着て、帽子をかぶり、卒業式に参加させてくれる面白い国がカナダです。

「高校留学」をバラ色に描く留学エージェントのサイトには、ガウンを着た日本人の姿が載っていますが、「あ、卒業できるんだ！」と騙されないようにして下さい。

カナダ在住です。

カナダの教育制度を知らないのに留学し、将来が見えないままズルズルと高い授業料を払い続けている高校生たちへアドバイスを続けています。

1994年からのカナダ教育制度内での経験が、日本からの高校生へのBest Optionを見つける助けになればと思います。

カナダの教育制度は日本とは大きく異なります。

みんな一緒に入学し、とにかくみんな一緒に卒業という制度は存在しません。

また、地元カナダの生徒たちは、日本のようにみんながみんな大学へは行きません。ピンからキリの大きなレベルの差がある日本の大学事情とは異なり、カナダの大学のレベルは非常に高いのが理由のひとつです。

学習能力のない生徒たちはGrade10レベルから、進学しない生徒組に振り分けられます。進学しない生徒用の簡単なコースでさえ取りそこねるカナダ高校生が多いのにも驚きます。

エネルギー資源の豊富なカナダでは、学歴がなくてもできる仕事がたくさんあるのも理由です。

しかし、社会に出たものの、やはり高卒資格くらいは必要だと、取り直すカナダ人を救済する制度がContinuing education という仕組みです。

Continuing Education 自体はカナダ人の大人のために作られた制度で、州によっては無料という所も多いです。

教育は社会の発展に非常に重要ですからね。

州立カレッジで受講できる所もあれば、地域のスクールボードがAdult Education Centre とかの名前で開講している所もあります。

カナダに留学したものの、高校卒業出来なかったという日本人留学生が、そこで不足単位を取ることも制度的には可能です。

もちろん、カナダ人ではありませんので、授業料は必要です。(卒業後カナダ社会に貢献するわけではないですから)

また、実際に受講を許可してもらえるかどうかは、そのカレッジ、または管轄スクールボードへ問い合わせして下さい。

アルバータ州の場合は、州がAdult Education を管理していますので、出願は州政府を通して行います。

実際に授業を提供するのは、カレッジなどとなっているようです。

と、これがカナダのContinuing Education の制度ですが、「日本と同じように誰でも高校卒業は3年で可能」との思い込みで留学した高校生の受け皿ではないことも、理解しておく必要があります。

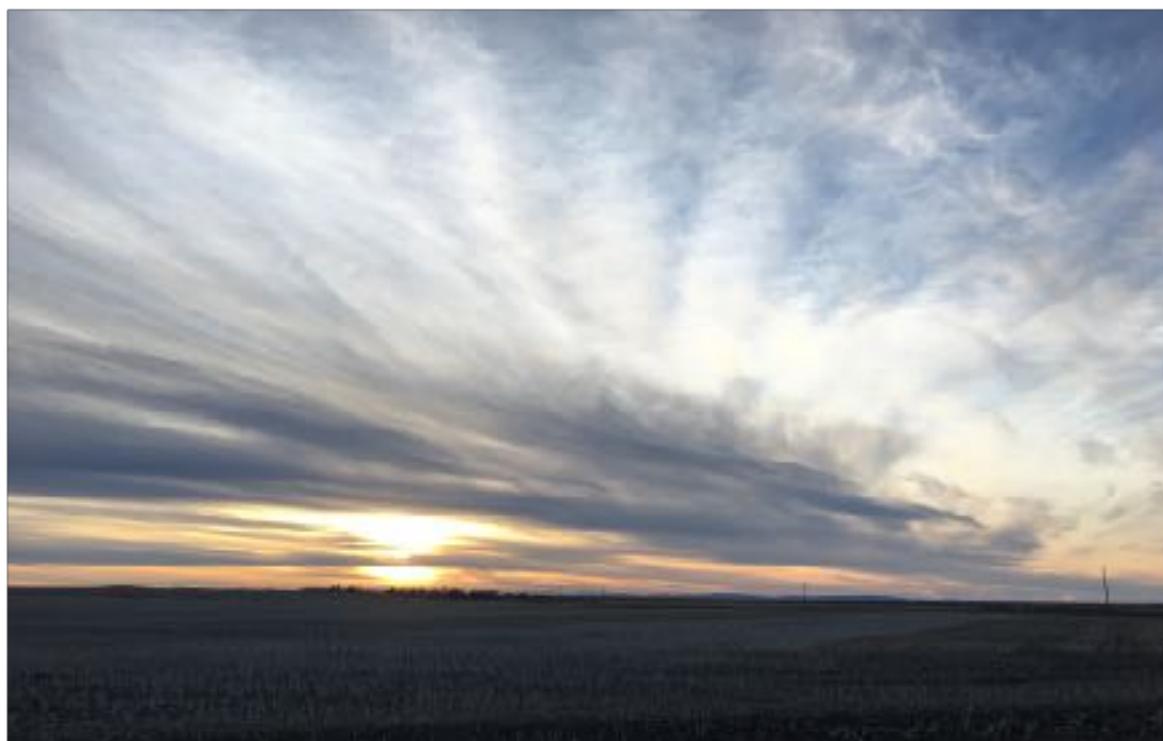
あくまでも、通常の教育ルートからは横道にそれたカナダ人のための救済制度です。わざわざ高い費用を払い、カナダの高校までやって来て、結局その救済制度に頼らなければ高校卒業も出来ない留学生が、また更に費用を払い、カナダの大人と一緒に勉強する妙な選択しです。

また、いかにContinuing Education とはいえ、大学進学資格の出るEnglishのコースの難易度は変わりませんので、要注意。

通っていた高校で届かなかったレベルのEnglish の単位が取れる保証はありません。

専門学校については、どの学校を指して質問しているのかが不明ですが、政府が認可しているものと認可していないものがありますので、要注意。

また、Continuing Education はそこでは提供されません。



Jun.7, 2018

「カナダ高校留学の実態」を知っていますか？

卒業を目指してやって来た日本人高校生の大多数が、卒業にたどり着けない実態を。

管轄高校も、スクールボードも、もちろん本人も親も、そんな留学生の話は公表していません。

従って、数値を計ることは不可能ですが、30年近くの実験からかなりのパーセンテージに上ると確信しています。

ブログなどにも、ポツポツとそんな高校留学の体験談が投稿されるようになりました。

「留学に失敗しました。現地の高校に通う予定でしたが多分帰ることになると思います。この先日本に帰った後自分がどんな風になるのか心配です。現地の高校にで卒業予定だったので日本に帰ると中卒です。」

「英語留学した日本人は、ほとんどが失敗して帰国するっている話をよく聞くんですが本当ですか？」

「高校留学していました。10人いた友達が、卒業したときには5人になっていました。他の友達は出席率が足りず強制送還、もしくはビザの更新ができませんでした。」

「最近、高校生での交換留学をする人も多くなってきて楽しかった体験が浮き彫りになっていますが、私は途中で強制帰国となってしまいました。」

「今、カナダの高校に長期留学してるのですが、もう辞めて日本に帰っても良いですか？

私は中学を卒業して、日本の高校受けずに今カナダの高校に通っています。もう頑張れる気がしません。ストレスで体調は壊すし、授業も英語ばかり(当たり前だろ!!)なのでついていけないし、学校にも馴染めないし、ホームステイしている家に帰ってもリラックスできないし……。英語も大嫌いです。

実は英語は中学の時から大嫌いで、5段階評価で、英語の成績は常に2でした。嫌いな事は続かないと思います。」

ここに一つのパターンが見えますね。

・カナダでの高校卒業の難しさを全く理解せずに留学してしまった。

・もともとの能力のみならず、英語力も不足した状態で、しかも無謀にも日本では中卒のまま留学してしまった。

・欠席、成績不良の学生ビザは取り消されることを知らなかったなので、日本と同様不真面目な態度を続けた。

・バラ色の夢が崩れた。

まとめると、「エージェントの語るバラ色留学話を鵜呑みにし、日本でも成績不良、真面目さにも欠ける高校生が、カナダにでも行こうと、留学してしまった。」留学の末路です。

残念ながら、そんな失敗予備軍が毎年たくさんカナダにやって来ます。

いや、エージェントとスクールボードのビジネスモデルにすっぽりはまり、送られて来ると言った方がいいでしょう。

どんなに低い能力の留学生でも、日本でろくな高校に行けなかった留学生でも、優秀な日本人留学生でも、払う授業料は同じ。カナダ側とエージェントとのぼろい儲けとなりますから。

このパターンにすっぽりはまってしまう日本人留学生で溢れかえるのが、カナダの高校留学事情です。

10人入れたら、一人くらいは卒業まで行けるだろうとの、目論見かも知れません。

留学し、最初にショックを受けるのは、他の日本人留学生の多さ、その振る舞いでしょうね。

こんなのと一緒にされるの？と。

そして、自分も同じグループに入るしか選択肢はなく、同じ末路をたどる。

これが現在のカナダ高校留学の典型的なパターンです。

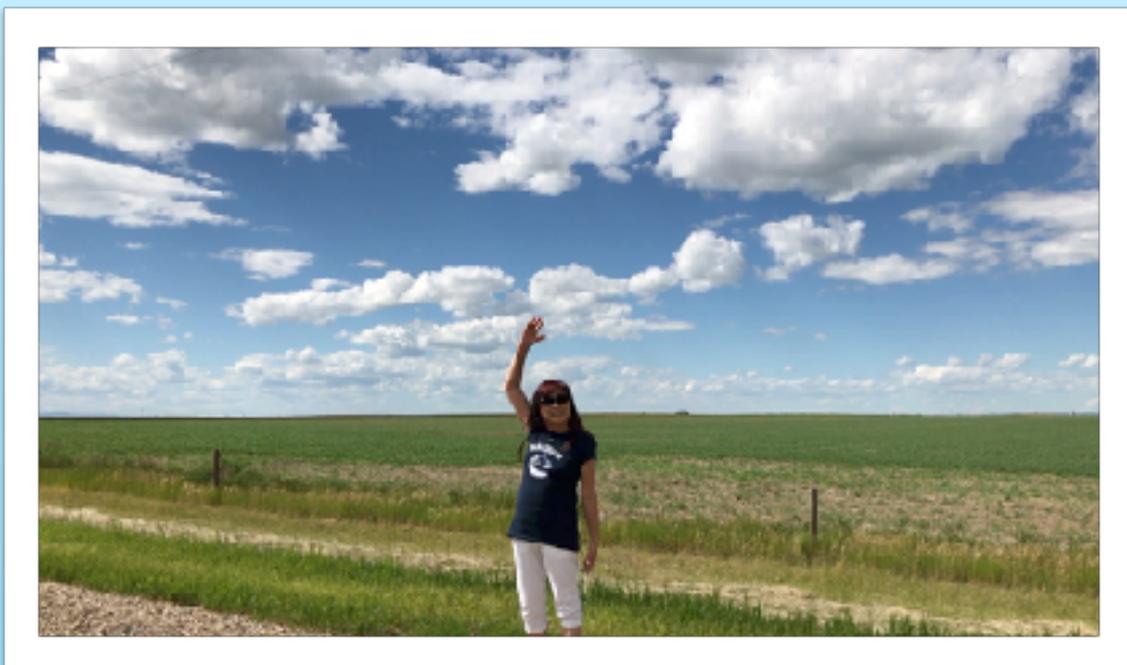
当てはまると思った高校生、そして親のみなさん。

なんとかこんなパターンから抜け出し、将来が見えるような選択肢のご相談に応じています。

1994年以来、悪化の一途をたどり続けた「カナダ高校留学」を目撃し、活動が続けた来た立場からカウンセリング致します。

[無料相談申込](#)（CONTACTから）

Let Me Help You.



〈20歳の日本人高校留學生が行き場もなく徘徊するカナダ〉

Jun. 9, 2018

30年近く「カナダ高校留学の実態」を日本のみなさんに発信し続けています。

「留学せん事」という本も出版し、ひとりでも日本の高校生の大切な未来を守りたいと頑張りました。

なぜ？

それは、このような日本の若者がひとりでも出ないようにしたいからです。

Case Study (20歳の高校留學生)

「正気を疑うような洋服を着、朝寝坊し、お酒を飲み過ぎて、劇的にホームシックになり、語学学校に通う。皮肉な事に、このような愉快願望留学青年達は、毎日の生活では全然英語をしゃべる事もない。よほど必要に迫られる時以外は。」 (ダグラス・クーブランド)

これは、バンクーバーに留学している日本人についてのコメントです。

いわゆる役にも立たない「語学留学」とやらをしている日本人についてでもありますし、実は、20歳になろうと言うのに未だカナダの高校卒業資格の取れない日本人の描写でもあります。

私がまだ「サポートプログラム」を主催している頃から、すでに「20歳を過ぎた日本の高校留學生」がバンクーバーの話題となっていました。

それから20年近く経つ現在も、「20歳にもなってまだカナダの高校を卒業出来ず、バンクーバーをうろつく日本人」は、かなりの数に上ると思われます。

カナダの教育制度も理解せず、日本でうまくいかなかった態度のままカナダに送られた高校生の成れの果てです。

エージェントは、もちろん、「簡単に卒業出来ますよ～」と送り出します。

受け入れスクールボードも、「あ、また儲かる！」と授業料を目当てに受け入れます。

そんな日本人高校生に、カナダで何が起ころうが知ったことではありません。

勝手にお金を払ってやってきた本人に全責任があるというのが、受け入れスクールボード側の言い分です。

ほとんどのケースはこう始まり、こう終わります。

日本では成績悪いけど、カナダ行ったら楽しい高校生活が送れるという「エージェントの嘘」にしがみついてカナダにやって来た。



バンクーバー近郊の巨大留学生プログラムのあるスクールボードに入れられる。



もちろん能力がないので、正式授業は取れずESLで他の留学生とごった煮状態。



説明がわからないのか、エージェントの嘘なのか、なぜかESLは卒業の単位になると思い込んでいるので、本人には危機感はなし。何も努力をしないままESLでだらだら。他の留学生とつるんで遊びほうける。



いくら何でもずっとESLにいることに不安を覚え、学校に聞こうとするが英語が出来ないため、学校のカウンセラーともうまくコミュニケーションが取れない。もちろん、エージェントは送り込んだあとの留学生など放ったらかし。学校の方針への関与も出きないのがエージェントの姿。



日本の親に言いつける。「この学校はインチキで、いつまで経っても卒業させてくれない。」などなど。



カナダの教育制度に全く無知なくせに、日本と同じ妙な過保護意識の親は、「とんでもない！学校を変わらなさい！」



カナダの高校も「こんな出来の悪いのはそろそろお祓い箱にした方がいいな」と転校を勧める。いくらでも新しい日本人をエージェントが連れて来てくれるので、ややこしいのは厄介払いが得策とばかりに。

しかも、この時点では留学生の年齢が18歳くらいに到達。カナダでは大学生の年齢。完全なお邪魔虫状態の留学生。



転校を勧める先は、そんな18歳を過ぎた日本人高校生から、これまた授業料をばったくる大人用の高校卒業プログラムを持つ学校。特に留学生の落ちこぼれを集める学校がバンクーバーに数校あるが、中でもコロンビアカレッジは、高校卒業出来ない20歳前後の日本人の「留学生捨て山」として悪名高い。



カナダの社会と接点もなく、落ちこぼれの日本人留学生同士でつるみ、バンクーバーの繁華街に近いカレッジ生活は、クープランドの描写する「愉快願望留学生」と成り下がる。



しかし、単位は取れない。勉強しないし、態度も悪いので、取れるわけがない。



単位が取れないのを今度はカレッジのせいにし、「カレッジが悪いから卒業出来ない」と親に言いつける。

日本の親は、「他の学校に行きなさい！」と、ますます子供を追い込む指示を出す。日本に帰らせても「中卒」。「うちの子カナダに留学してるんですの」と自慢した手前、後には引けない親。子供はますます追い込まれる。



自分の能力不足、努力不足を棚にあげ、いい学校さえ見つければ、魔法のようにあっと言う間に高校卒業出来るのではないかとの希望を捨てきれず、バンクーバー徘徊を続ける。親のお金を湯水のように無駄にしながら。



単位も取れない、成績も芳しくない、出席率も悪い、しかも20歳を過ぎても高校卒業の見込みもない日本人留学生は、カナダ移民局からビザ更新を却下され、文句も言えず、遂に中卒のまま帰国。

カナダからの真剣な忠告です。

- ・能力なし、準備なし、カナダ教育制度への知識なしの留学はしないこと
- ・留学してしまった場合、少なくとも1～2年以内にSOSを発信すること
- ・18歳を過ぎてまだ卒業単位が相当数残っている場合は、綺麗サッパリ諦めて帰国すること
- ・少なくとも、ビザ取り消しになる以前に帰国すること

まだ間に合いそうな方へ：ベストなオプションを一緒に考えましょう。ご連絡下さい。

Let Me Help You. [無料相談申込](#) (CONTACTから)

後書

1994年、カナダBC州にて日本人高校生への第分とうサポートの結果、見えて来た「高校留学」という醜いビジネスモデル。悲惨なのは、ビジネスの商品が貴重な未来を持つ日本の高校生だという現実でした。

年を追うごとに悪化する「高校留学ビジネス」に、潰されている日本の若者達を何とか救いたいと立ち上がったものの、エージェントの語る「バラ色留学」に騙される親子がかなりの数に。

受け入れ側カナダの「授業料払えば誰でも」的無責任さも目を覆うばかりです。

現在は、SOSに対応しつつも、エージェントやスクールボードと直接対峙し、問題を日本そしてカナダ社会にも訴る活動を行っています。ひとりの力ですが、たくさんの方に届けと。

Let Me Help You.

大澤眞知子 info@superworldclub.co.jp

(カナダ・アルバータ州・エドモントンより)

